

令和7年度 山梨・忠清北道 中学生 国際交流事業 報告書

日 時 令和7年7月29日（火）～8月4日（月）
場 所 韓国 忠清北道等
参加者 本県中学生32人、忠清北道中学生30人



○交流事業全体の日程

- 7月29日（火） 出国、歓迎会
- 7月30日（水） 世界遺産探訪（法住寺）、伝統文化体験、班別討論会
- 7月31日（木） 大統領別荘及び記念館訪問、スポーツ交流
- 8月 1日（金） 清州古印刷博物館見学、忠北大学校キャンパスツアー
施設見学及び体験プログラム（自然科学教育院）、履修式
- 8月 2日（土） 班別自由探訪（ソンアンギル）、韓服体験（景福宮）、送別会
- 8月 3日（日） 墓所探訪（浅川巧氏）、班別自由探訪（ロッテワールド）
- 8月 4日（月） 帰国

1日目: 出国、歓迎会



2日目:世界遺産探訪(法住寺) 伝統文化体験、班別討論会



3日目:大統領別荘及び記念館訪問 スポーツ交流



4日目:清州古印刷博物館見学

忠北大学校キャンパスツアー

体験プログラム(自然科学教育院)

履修式



5日目: 班別自由探訪(ソンアンギル)、 韓服体験(景福宮)、送別会



6日目:墓所探訪(浅川巧氏)、 班別自由探訪(ロッテワールド)



山梨・忠清北道 中学生国際交流事業 事後レポート

玉穂中 2年 No.1 氏名 瀬脇 咲那

○ 日本と韓国の歴史について学んだこと

韓国へ行って実際に学んだことは、日本と韓国が今の関係を保てているのは浅川さんが大きく関係してるのかなと思いました。浅川さんは当時緑化や現地に合った育苗法を開発し工芸品の収集や研究をし日本に紹介していたという話を聞きそう考えました。また、浅川さんは韓国式のお墓に埋めてもらうように自ら希望していたという話を聞いてどれだけ力を尽くしたのか現地の人にどれだけ恵まれていたかが分かり日本と韓国の歴史に深く関係しているのだなと思いました。話を聞き実際にお墓参りに行かなければ分からないことも沢山あったと思うので実際に話を聞きお墓参りに行くことができ、多くのことを学ぶことが出来てとても良かったと感じています。

○異なる文化について特に印象に残っていること

韓国の文化について特に印象に残っていることは、食文化についてです。私は韓国へ行って最初に驚いたのは食べ物の辛さでした。日本で外食をする時前菜等に辛いものを出してもらう事や献立に辛いものが出されるのは韓国に比べて少ないと感じます。韓国の人達は辛いものに強いと聞きますが、実際に食べてみて納得しました。また、韓国での食事マナーに印象を持ちました。日本では残すことはあまり良くない事、茶碗は持ち上げて食べる、などの意識を持っている人が多数だと思います。私は韓国で食事をするまでは自分の知っている食事マナーは万国共通だと思っていました。ですが、韓国へ行って自分が知る範囲の食事マナーはどの国でも礼儀正しいマナーになる訳ではないんだなと思いました。韓国ではご飯を作ってくれた方へ満足した事を伝えるために少量残すことがマナーとされていたり、茶碗は左手を添える程度で持たないことがマナーなどの意識を持っている人が多数だといわれています。韓国の食文化を知った時、とても印象に残りました。私は日本には無いような驚く文化を見つけるとたまに変だなと感じてしまうことがありました。ですが私が変だと感じた文化は他の国の方々が色々な思いで受け継がれてきた、色々な意味が込められているとても素敵な文化だと気づくことが出来ました。

○韓国の中学生との交流で特に思い出に残っていること

韓国の中学生との交流で思い出に残っていることは、それぞれの共通の趣味や好きな物など沢山のことについて楽しく話せたことです。私は最初緊張しすぎて自分から交流することが出来ませんでした。ですが2日目の午前中の活動で同じ班の韓国の子が話しかけてくれました。最初はお互い緊張していましたが、会話を掘り下げていくうちに、何日間かで自然と打ち解けることが出来ました。どんなものが好き？趣味はなに？など翻訳機やジェスチャーで伝えたり、カタコト英語が混じりつつもお互い笑顔で話すことが出来てとても良かったなと感じています。私はその時、韓国の子を見習いたいなと思いました。言葉が通じるかも分からない他国の子に自ら話しかけ、会話を繰り広げる事は簡単なことでは無いと感じたからです。そしてその子が話しかけてくれたことで他国の子でも多少言葉が通じなくても、お互いが頑張ることで楽しく話すことが出来るんだな。と思いました。

○韓国の中学生とコミュニケーションをとるために努力したことや難しかったこと (特に言語の部分)

韓国の中学生とコミュニケーションをとるために努力したことは、自分から知ろうとした事です。同じ国の人どうしてもそうですがコミュニケーションをとることはお互いに歩み寄ったり自分から知ろうとしなければ成り立つものではないと思います。相手の国の言語や趣味などなにか自分から知っておくことで相手の好きなものを見つけた時や次の会話へ繋げることが出来ると思い私は思いついた範囲で質問をしました。その際に相手も私のことについて質問をしてくれてとても嬉しかったです。お互いの国の言葉を教え合い沢山は覚えられなかったけれど挨拶や感謝の言葉、いただきます。ご馳走様でした。など普段から使う言葉を覚えることが出来ました。相手も日本語を覚えようとしてくれていてとても嬉しかったです。コミュニケーションをとる時に難しかった事は、正しい発音や思っている事をそのまま伝えることです。日本語も韓国語も、言葉を使う時に発音があまり成っていないと聞き取りにくいことがあります。私も実際韓国語を使う時発音の難しさを実感しました。他国の言語で思っている事を伝えたり聞き取る事は思っているよりもなかなか難しいものでした。ですが、まだお互い不安定ながらもお互いの国の言語でコミュニケーションをとる事はとても楽しいと感じました。

山梨・忠清北道 中学生国際交流事業 事後レポート

甲陵中 2年 No.2

氏名 石井恵介

○日本と韓国の歴史について学んだこと

僕は法住寺（ポプチュサ）というお寺に行って、韓国の歴史について学びました。
法住寺は553年に建てられました。ですが豊臣秀吉の朝鮮出兵により焼失してしまいました。
1600年に再建され、今の法住寺となっています。

湖西第一伽藍

法住寺の最初の門 いろいろな色で作られている

木の腐食防止

○異なる文化について特に印象に残っていること

・文字

話す言語や、書く文字の違いの大きさを改めて感じました。特に自分の意見等を相手に伝えることがとても難しかったです。また、文字を読むのも大変でした。

・食器

お椀などは日本と変わらない陶器で作られていました。しかし、箸やスプーンなどはすべて鉄でできていました。鉄は毒に反応しやすいから朝鮮王朝ではよく使用されていたようです。その名残が残っているのだなと伝統を感じました。

・車線

一番、驚いたのは車線が右車線だったことです。いつも右側の席に座って車の外を眺めていたので、右側を見ても車が通らないことに違和感を覚えました。

海を挟んですぐ近くなのにこんなにも文化の違いがあることに驚きました。

○韓国の中学生との交流で特に思い出に残っていること

前述したとおり言語が違い、思っていることを簡単には伝えられなかったけれど、同じ体験を通して、一緒に面白いことで笑って、悲しいことで泣いて、喜んで、怒って、言葉の壁を越えた心の交流ができたことがとても思い出に残っています。

○韓国の中学生とコミュニケーションとるために努力したことや難しかったこと
(特に言語の部分)

韓国語が分からず意見をうまく伝えられなかったこともありましたが、普段勉強している英語がかなり活躍しました。

日本語だと相手の人に通じず首を傾げられてしまいますが、英語を使うと伝わりました。

あまり、英語はうまくないですが今まで学んできたことを最大限に生かして良かったです。

○浅川巧さんのお墓にお参りして感じたこと

浅川巧さんは日本と韓国をつないだすごい人なのだと感動しました。

○この事業をとおして、特に身についたと思う力（理由も含めて）

この事業を通して積極性が増したと思います。ほかの日本人はどんどん韓国の人と仲良くなるのに、自分は全然、話しかけられないでいたので頑張って勇気を出して話しかけました。

後半はどんどん話しかけに行けたので積極性が増えたと思います。

山梨・忠清北道 中学生国際交流事業 事後レポート

山梨大学教育学部附属中 2年 No3

氏名 野村佳玄

○日本と韓国の歴史について学んだこと

日本と韓国の歴史について学んだことは浅川兄弟のことで特に弟の浅川巧のことが印象に残っています。浅川巧は韓国に渡り植民地化によって荒廃が進んでいた山々を植林・緑化に林業技術者として業績を残していました。それによって、韓国で浅川巧が死んでも丁重に葬られ、90年以上たった今でもお墓が整備されて大切にされていることが分かりました。また、日本と韓国の繋がりを強くするような偉大な業績を残した人が同じ山梨県民だったということを知ってとても誇らしい気持ちになりました。

○異なる文化について特に印象に残っていること

日本と韓国の異なる文化について特に印象に残っていることは主に食べ物についてです。韓国での食事は韓国で食べた6日間の食事全てがとても辛く、濃い味でした。それを韓国の人達は平然と食べてとても印象に残っています。また、食事の中でもう一つ驚いたことは韓国では出された食事でも食べられないものは堂々と残すところです。私は最初、出された食べ物を残すことに罪悪感がありましたが、韓国の人達が残しているところを見て食事が辛くて苦しんでいた自分は救われたことがとても印象に残っています。そして、韓国の人達はとても主体的だったことも印象に残っています。韓国の人達は自分が正しいと思ったことは躊躇せず、行動に移す姿勢があり、自分で考えて自主的に動いていて自分も韓国の人達のように主体的な行動が出来るようになりたいと思ったことが印象に残っています。

○韓国の中学生との交流で特に思い出に残っていること

韓国の中学生との交流で思い出に残っていることはロッテワールドで遊んだことです。ロッテワールドでは韓国の中学生と一緒にアトラクションを楽しんだりショーを観たりしました。韓国の中学生とは韓国語で話そうと試みましたが、とても難しく偶然相手の日本語が上手かったので日本語でコミュニケーションをとることができました。韓国での最後の活動だったのでとても悲しかったですがめいっぱい楽しむことができました。また、韓国の中学生とスーパーマーケットに行ったことも思い出に残っています。韓国の中学生にお土産は何がいいかなど韓国のオススメなどを説明してくれて嬉しかったのでとても思い出に残っています。

○韓国の中学生とコミュニケーションとるために努力したことや難しかったこと
(特に言語の部分)

韓国の中学生とコミュニケーションをとるために努力したことはできるだけ簡単な日本語で話すことです。自分は韓国語で会話することはあまりできなかったので相手の日本語が上手だったので日本語でコミュニケーションをとっていました。韓国の中学生ができるだけ理解できるように簡単な日本語、単語で話したりジェスチャーを使うなどして会話をスムーズに進めることができました。難しかったことは同じ話題を探すことです。韓国の中学生は日本の漫画やアニメについて詳しく、話題ができるかもしれないと思いましたが自分は知らないアニメだったので自分が話せる話題を探すことがとても難しかったです。

○浅川巧さんのお墓にお参りして感じたこと

浅川巧さんのお墓にお参りして感じたことは山梨県民だった人が韓国で偉大な業績を残していたことで敬われていてとても誇らしい気持ちになりました。浅川巧さんのお墓はとてもきれいに整備されていて、本当に大切にされていると感じました。

○この事業をとおして、特に身についたと思う力（理由も含めて）

この事業を通して身についたと思う力は知らない人とも共同作業などを通して仲を深めることです。前の自分は知らない人と話すのが苦手でいつも同じ人と話していたのですがこの事業では知っている人が一人もいなかったため、自然と知らない人と仲良くなって情報を交換したり確認したりすることができました。また、韓国の人とも交流する中で少しずつ距離を縮められることを感じたので、知らない人とも仲良くする力が身についたと思います。そして、自主的に行動する力も身についたと思います。この事業で韓国の中学生と過ごす中で韓国の中学生達の自主性に触れてそれを自分もつけたいと感じていたので事業の中で自主的に動けるように努力していました。大々的に代表になるなどはできませんでしたが、自分が分からないときは人に聞いたり、分かっている人がいたら教えてあげることができていたので自主的に行動する力が身についたと思います。

山梨・忠清北道 中学生国際交流事業 事後レポート

甲府北中 3年 No4

氏名 猪股明璃

○日本と韓国の歴史について学んだこと

日本と韓国は昔からつながっている長い歴史を持っていることを学んだ。

韓国の歴史については世界遺産や大統領別荘、たくさんの場所の観光を通して様々なことを目で耳で体で体験することが出来ました。

また、スポーツ活動でボクシングをしたとき、日本はボクシングが強いというお話を聞き、日本が強いというボクシングを韓国で体験できるという貴重な時間からも日韓のつながりを感じることが出来た。

韓国の様々な文化と歴史を学ぶとともに日韓の深いつながりを感じることが出来た。

○異なる文化について特に印象に残っていること

食事の文化。日本では出された食べ物をすべて食べるのが当たり前だが、韓国では量も多いと感じ残すことが普通なのだなと思った。でもそのおかげで「食べないと」と思うことが少ないから無理しないで食べようとかがえることができた。

また、食後日本ではみんなで「ごちそうさま」をして片づけることが多いが、韓国の食堂などで食事をしたとき、食べ終わった人から片づけていくのが当たり前なのだと感じた。自分は自分という「自己管理」が強くすごいなと感じた。

誰かと一緒にないといやだとか、そういうことが少なく、そこからも自分で動くという習慣を感じられた。

学ぶことが多く、自分自身も成長することが出来た。

○韓国の中學生との交流で特に思い出に残っていること

班行動。一日を共に過ごし、一日の終わりの自由行動や食事など様々な場面で一緒にすごした班のみんなだった。お互いに理解しあい、たとえ言語の壁があってもここは通じ合えるのだと感じた。自由行動ではロッテマートなどでお買い物をした。友達がたくさんおすすめのものを教えてくれたり、先生がアイスを買ってくれたり、とても楽しい時間を過ごした。みんなと仲良くできたのも先生のおかげでもあるし、お兄ちゃんと年が近かったのもあるのかもしれないけど、私にとってだいすきなスタッフさんになった。

私が班行動のなかでも特に思い出に残っていることは「ロッテワールド」。最終日だった。一週間近く共に過ごした家族のような仲間とのお別れにあまり実感がわかなかったけど、バスから降りる際に日本の学生は二号車に荷物をと言われ「本当に帰るのだな」と感じた。みんなの表情も少し悲しそうだったし胸が締め付けられるような感覚だったけど、最終日を全力で楽しもうと思えた。班のみんなとロッテワールドで一日近く行動し、楽しいこともスリルがあることもともに体験し、この一日でさらに仲が深まった。

班の人だけでなく、韓国の友達の積極性のおかげもありたくさんのひとと楽しい思い出を作ることができ最高の一週間になった。奇跡のような出会いだった。

○韓国の中學生とコミュニケーションとるために努力したことや難しかったこと (特に言語の部分)

韓国語があまりわからないし、聞き取ることが難しいから相手に伝えたいことをうまく韓国語では伝えられなかったりはしたけど、ジェスチャーや英語、アイコンタクトなど様々な工夫を通して関わることが出来た。英語と違って単語を覚えたりするのも私にとっては難しく感じたし、文字を読むこともできなかったけど、日本語が上手な仲良くなれたお友達のおかげで韓国語も学んで帰ってすることが出来た。韓国のお友達の中にも日本語があまりわからない子がいてはじめはしゃべったりできなかったけど、ジェスチャーとか工夫をして通じ合えることができて本当にうれしかった。英語ができる子もいたから、英語で会話できたのもなんか新鮮でうれしかったし、なにより分かり合えたり一緒に笑い会えたことが一番の思い出になった。

たとえ言語の壁があっても、笑いあえたり分かり合えるのだと分かった。日韓交流でできたたくさんの友達のおかげで一生忘れられない思い出を作ることが出来た。これからも山梨と忠清北道の関係のように長く続く関係であってほしいと思う。自分もこの経験を大切に生活していこうと決めた。

○浅川巧さんのお墓にお参りして感じたこと

韓国の山に山梨の方のお墓があることを不思議に感じたけど、韓国の友達と一緒に山を登って一緒にお参りして日韓の交流を改めて感じた。

山を登るのが大変だったけどその先に山梨の方のお墓があり、山梨県民としてうれしく感じた。韓国で山梨を感じられたこともうれしかったし、韓国のお友達とそのお墓にお参りができてうれしかった。

また、浅川さんについて説明をしてくださるガイドさんみたいな方もいて山梨の浅川さんを学んでいる方がいること、それを韓国のおともだちと一緒にまなべること、すべてが貴重な体験になる時間だった。

お花を添えたり、写真を撮影したりお話をきいたり日韓の深い交流をたくさん体感できてうれしかった。

○この事業をとおして、特に身についたと思う力（理由も含めて）

積極性と考える力。

韓国のお友達の積極的な性格のおかげでたくさんの人とかかわることが出来たから、私も自分から話しかけたりすることができたし、たくさん学ぶことが出来た。

また、どうしたらうまくコミュニケーションがとれるか、自分の気持ちを伝えるための工夫など自分で様々なことを考えながら関わる事が出来た。

様々なことを学んだおかげでたくさんのおともだちを作ることができたし、最高の思い出を作ることが出来た。日本に帰ってきて、新たな友達と出会った際にも実感することができ、うれしく感じた。

そして、今までより自分が置かれた状況や場で最大限に自分を表し、全力で楽しめるようになった。

はじめは不安でいっぱいだったこの一週間、最高の思い出を作り、一生忘れられない一週間になった。

山梨・忠清北道 中学生国際交流事業 事後レポート

山梨英和中 2年 No5

氏名 深澤桃子

○日本と韓国の歴史について学んだこと

今回の交流事業を通して、私は日本と韓国の歴史や文化のつながりについて学びました。事前学習や現地での説明を聞く中で、両国は昔から地理的に近いこともあり、人の往来や文化の交流が盛んだったことを知りました。例えば建物の様式や食べ物の材料、生活の知恵など、日本と韓国にはとても似ている部分が多くあります。実際に現地で昔の町並みや文化財に触れると日本にも似たようなものがあるなと感じることが多く、親しみを覚えました。このように共通点がたくさんある事は、両国が昔から深く関わってきた証拠だと思います。そして似ている部分を知ることによって、距離がぐっと近づき、違いを知ることによって新しい発見ができると感じました。日本と韓国の歴史を学ぶ事は、互いを理解し合う第一歩であり、これからの交流をもっと豊かにするために大切だと思いました。

○異なる文化について特に印象に残っていること

韓国での生活や文化は私にとってまさに新しい発見の連続でした。特に食事では朝昼晩すべてにキムチや辛い味付けの料理が出てきて驚きました。私にとってはとても辛く感じたのですが、韓国の方々は全然辛くないと笑顔で食べていてその違いがとても一緒に残りました。また食卓を囲むと自然と会話や笑顔が生まれ、家族のように食事を楽しむ雰囲気に暖かさを感じました。街を歩けば看板に並ぶハングル文字や夕方になっても明るく賑やかな街並み、独特の香りや人々の活気があり、日本とは違うエネルギーを感じました。もちろん日本と似ている部分もあって安心できる一方で、大きく違う部分もあり、その両方を実際に体験できたこと、とても貴重で楽しい思い出になりました。

○韓国の中学生との交流で特に思い出に残っていること

韓国の中学生と一緒に過ごした時間はどれも心に残る大切な思い出です。一緒にご飯を食べながらお互いの好みを話したり、スーパーでは商品を指差して韓国語をたくさん教えてもらったりしました。写真を撮るときには自然に笑顔になり、あっという間に打ち解けることができました。言葉が全部わからなくても笑顔や表情を身振り手振りで通じ合えた瞬間は本当に嬉しかったです。国が違っても同じ中学生なんだと実感し、気持ちの距離がぐっと近づいた気がしました。出会ってからそれほど時間が経っていないのに一緒に笑い合い、昔からの友達のように過ごせることが本当に幸せでした。そして楽しい時間があっという間に過ぎてしまった分お別れの時はとても寂しかったです。最後にまた会おうねと言葉を交わしながら手を振ったとき、胸がぎゅっと締め付けられるような気持ちになりました。短い時間だったのに、こんなに強い絆を感じられたことに驚き。同時に心からこの出会いを大切にしたいと思いました。別れは悲しかったけれど、その分この交流が本当にかげがえのないものになったと感じています。

○韓国の中学生とコミュニケーションとるために努力したことや難しかったこと (特に言語の部分)

交流会の前から私は韓国語を勉強していましたが、実際に韓国の方と会話をして使うのは今回が初めてだったので、最初は本当に緊張しました。発音が通じるか変に思われないか不安でなかなか声をかける勇気が出ませんでした。しかし思い切って韓国語で話しかけてみると、相手が笑顔で上手だねと言ってくれたり、逆に日本語で返してくれたりしました。その瞬間、不安よりも嬉しさが大きくなり自信につながりました。お互いの言葉を交互に使いながら会話をする時間はとても楽しく伝えたいという気持ちがあれば、言語の壁は超えられるのだと実感しました。この経験はこれから外国の人と話す時にきっと大丈夫だと思える自信につながり、これから先の私の学びは人生に必ず役立つと感じています。

○浅川巧さんのお墓にお参りして感じたこと

浅川巧さんのお墓にお参りしたとき、現地の方々が彼を深く敬い、今も大切に思っていることを知り、胸が熱くなりました。浅川さんは日本と韓国の友好のために力を尽くし、現地の人々に寄り添い続けました。その思いや行動は時代を超えて語り継がれ、今も私たちの心に大きな影響を与えています。お墓の前に立ったとき、私たちも浅川さんのように国と国の架け橋になれる人になりたいという気持ちが自然と湧いてきました。過去にこのように誠実に両国のために尽くした方がいたからこそ、今の交流、今の日韓関係が築かれているのだと思います。浅川さんの存在は私にとって未来を考える大きなきっかけとなりました。

○この事業をとおして、特に身についたと思う力（理由も含めて）

今回の交流を通して、私は「異なる文化や言語を持つ人と積極的に関わる力」が身に付いたと感じています。最初は私が今まで学んできた韓国語が通じるのか、そして本当に韓国の中学生と仲良くなれるのかがとても不安で相手がどう思うのかを気にしすぎてしまいました。しかし実際に会ってみると、相手も同じように少し緊張していて、笑顔で話しかけるとすぐに空気が和らぎ、自然と会話が広がりました。相手の文化を尊重し、興味をもつことで言葉が完全に通じなくても、心を通わせることができるという大切な経験を得ました。私はもともと韓国に留学したい、そして将来は韓国で働いてみたいと言う夢を持っていましたが、今回の交流を通じてその思いは以前よりもさらに強くなりました。今回身に付いた積極的に関わる力は、学校生活だけでなく、将来の国際的な交流や仕事の場でもきっと大きな役割を果たすと思います。

山梨・忠清北道 中学生国際交流事業 事後レポート

楡形中 2年 No 6

氏名 相川遥架

○日本と韓国の歴史について学んだこと

韓国は一番近い外国で、社会の授業では、歴史でも地理でも名前は聞いていたが、この事業で学習するまでは、どんな国かということはあらためて考えていなかった。1992年に山梨県と忠清北道が姉妹友好都市になっていたことも知らなかった。日韓の歴史については、すべてが新鮮だった。

第二次世界大戦が終わるまで、約35年間日本の植民地だったと聞いて驚いた。多分授業で習っていたと思うが、時々ニュースで、韓国や中国の人達の対日感情が悪化したという話があっても聞き流してしまっていた。韓国が数十年前まで日本語や日本の歌を禁止したり、日本のものを買わないようにしようという状況だったことを初めて知った。

これだけ近い国同士で、共通する見た目や文化がある国同士だからこそ、戦争や植民地という悪い歴史のわだかまりが続いていると思う。それでも、浅川兄弟や多くの人たちが一生懸命、正直に真面目に交流した結果、今、韓流、Kポップなどが流行ったり、こうやって中学生が交流できるような友好関係が築けて良かった。僕たちは、この関係が続くように、日韓両方の人々が互いに努力をしていかなくてはいけないと思った。

○異なる文化について特に印象に残っていること

日本とは違うテーブルマナーにびっくりした。同じようにご飯を食べるし、箸を使うけれど、箸は鉄製で薄くて使いにくかった。

特に、左手を使わないで食べることが衝撃的だった。家では、親に「左手を出す」、「お茶碗を持って食べる」といつも注意されるが、韓国では、基本的にお皿を持ち上げて食べず、左手はぶらんとしていたり、膝に乗せている。手をテーブル上に置いておくと、隣の人の邪魔になるのでマナー違反になるという。キムチを中心におかずがテーブルにたくさん並ぶので、周りに気をつかったマナーなのだった。

○韓国の中学生との交流で特に思い出に残っていること

〈伝統遊び〉

伝統遊び体験で面子やだるまさんがころんだをしたとき。まだ2日目で会ったばかりで、お互いに遠慮もあったし、なかなか思うように話が通じなかったのが苦労した。息が合わずに苦労したが、全員で手をつないで、チーム対抗でやったことで、日本人同士、日韓の中学生同士がチームの一体感を感じることができて、とても良かった。

〈2日目の終わりにやった劇〉

伝統遊びでチームの一体感ができた中で、夜、皆の前で劇を披露した。シナリオを相談しながら、みんなて話し合うことが大変だった。舞台では、僕はサブであまり前へは出なかったが、普段人前で何かをすることはないので、とても緊張したが、成功してとてもうれしかった。

〈俗離山のホテル〉

1、2日目日韓混合の6人部屋だった。初めて会う人たちばかりで緊張するな、うまく話ができるかなと、不安がいっぱいだったが、とても楽しかった。特に、トランプでUNOをしたことがとても楽しかった。韓国の中学生が誘ってくれて、英語やジェスチャーでしっかり丁寧に説明をしてくれて良かった。40分以上決着がつかず、誰かがドローを置くと文句がでたり、ドロー4返しなどでとても盛り上がった。みんながワイワイ笑顔で同じゲームができたことがとても良かった。

〈ロッテワールド〉

最終交流日のロッテワールドは、チームの雰囲気も良くて、交流をすることを意識しなくても、自然とワイワイ話をして、みんなで楽しむことができてとても良かった。僕は絶叫系が苦手だが、アトラクションを待つ間に、絶叫系は好き？次は何乗りたい？楽しみだね、フライドポテトが食べたいなど、日本で友達と話をすると変わらずに交流ができた。短い時間だったけれど、友達になれたと感じられた。

○韓国の中学生とコミュニケーションとるために努力したことや難しかったこと
(特に言語の部分)

最初に韓国語（ハングル文字）を見たとき、記号にしか見えなかった。英語は学校で習ったり、英会話教室に行っているが、これまで韓国語は、アンニョンハセヨ、カムサハムニダくらいしか知らなかったもので、事前レポートで韓国語について調べることにした。

日本での準備として、自己紹介ができるように練習したり、好きな食べ物や教科など質問されそうな内容を調べて紙に書いたり、韓国語ガイド本に付箋を貼った。韓国にスマホを持って行ったら困らないかなと思ったが、父親がスマホを持って行ったら駄目と言ったことと、手元にスマホがあったら何も考えないで頼ってしまいそうだったので諦めた。

韓国では、事前に決めていた通り、本を見て単語だけでも韓国語で話そうとしたり、ジェスチャーを入れた。でも、なかなか韓国語の発音が難しくて、通じないことも多かった。最初はとても戸惑ったけれど、相手が熱心に話しかけてくれたので、自分も頑張らないと思った。耳を慣らそう、本からわからないことは教えてもらおうと、英語を混ぜながら、自分から積極的に話しかけて会話をするようにした。みんな、テンポが速く話をふるが、僕は日本でも質問されると考えこんで返事が遅れる癖があるので、会話に遅れないように、言葉に速く反応することを意識した。相手が何を話そうとしているのか、集中して、察しながら会話することも大変だった。思うようにできない部分もあったけれど、色んなコミュニケーションを混ぜながらもしっかり交流できるし、一緒に楽しんだり、別れを悲しむことができた。

○浅川巧さんのお墓にお参りして感じたこと

説明会での事前学習まで、浅川兄弟のことは知らなかった。巧さんのお墓は、とてもきれいに手入れされていた。亡くなって何十年もたつのに、今でも巧さんのことを思い、お墓を手入れをしてくれる韓国人がいること、大切にされていることが、素直にすごいと思った。同じ日本人として、何だか誇らしい気持ちになった。相手の文化に気持ちを向けて大切にすることは、いつまでもつながっていくと思う。悲しい戦争はあったけれど、巧さんがいたから日本人には素敵な人がいると知ってもらえて、今自分が韓国でこうやって過ごしているんだなと思い、お墓にむかって「ありがとうございます」と伝えた。

○この事業をとおして、特に身についたと思う力（理由も含めて）

僕がこの事業を通して身についたことは、自分で考えて動くこと、積極的に物事に関わろうとする力だと思う。

僕にとって、この事業は挑戦の連続だった。まず、韓国のことをほとんど知らず、山梨県と韓国に交流があること、忠清北道と言う名前も初めて聞いた。韓国語は全くわからなかった。事前学習の講座もしてくれたし、レポートも書くから、事前の学習は何とかなるかなと思っていたが、そんなに甘くなかった。事前レポートでハングル文字について調べようとする、次から次に新しいワードが出てきた。自己紹介や、日常の挨拶ができるようにしようと思っても、どこまでやれば正解かわからず悩んだ。学校の勉強は学習する範囲や内容が決められているが、これは与えられたもの、決められたことをやるのではなく、自分で何をどこまで学ぶのかを決めて取り組むことが大変だった。誰かに言われるのではなく、自分から取り組むことの大切さが学べたと思う。

次に、コミュニケーションや人間関係の作り方について。自分の長所は、誰と一緒にいても、相手の話に耳を傾けて上手くやれる所だ。一方で、自分から積極的に動いて友達を作ること、自分の意見を言うことが苦手で、特に初めて人、環境の中ではとても緊張する。日本の中学生は、同地区の先輩が同じグループで安心したが、他は知らない人ばかりで、もちろん韓国の中学生もボランティアも初対面だ。とても緊張したが、韓国の中学生が英語交じりで沢山の話しかけてくれたこと、日本の中学生も返事をしようと努力している姿を見て、自分も黙ってはいけないと刺激を受け、自分から話しかけるよう意識してコミュニケーションをとることができた。

この事業に参加することで、自分のできること、やるべきことはなにを考えて自分から話しかける行動すること、積極的に学んだり取り組む姿勢はすべて自分の気持ちの持ち方次第だと学び、少しは実践できたと思う。

最後に、この1週間、文化体験を通して多くの貴重な経験をさせてもらい、日韓の多くの友人を作ることができた。帰国日に現地の空港で具合が悪くなってしまったが、服を貸してくれたり、心配して声をかけてくれる優し仲間たちだ。言葉の通じにくさなど苦勞もあったが、楽しい時間を過ごすことができた。ありがとうございました。

山梨・忠清北道 中学生国際交流事業 事後レポート

北西中 3年 No7

氏名 山本桃愛

○日本と韓国の歴史について学んだこと

法住寺を見学した時に丹青(青白赤黒黄)が色鮮やかで日本の寺より華やかでした。帰ってから丹青の意味を調べたところ、緑は東、白は西、赤は南、黒は北、黄は中央を象徴していることがわかりました。

直指は約 650 年前の書物ですが、すごくきれいに残っていて感心しました。ここに来るまで存在すら知らなかったけれど、世界遺産でありとても有名だったので知らなかったことが悲しくなりました。フランスで発見されて、現在も本物はフランスにあるようですが、すごく画期的な金属活字をつくった韓国でその技術を学べてよかったです。

○異なる文化について特に印象に残っていること

韓国の子になんて呼んだらいいか聞いた時に、3年生かどうか聞かれ、私が3年だと伝えると呼び捨てでいいと言われました。これは目上の人を敬う韓国の文化なのだと感じました。食事は日本よりも量が多く感じました。残してもいい文化であり、実際に残している子が多かったと思います。

○韓国の中学生との交流で特に思い出に残っていること

韓国の人は日本人に比べて話し方に悠長があって表情が豊かだなと感じました。イベントの時、大きい音で音楽をたくさんかけたり、突然踊らされたり、ピザやお菓子が出たり日本にはないにぎやかさで、ずっと笑いが止まらなかったです。

○韓国の中学生とコミュニケーションとるために努力したことや難しかったこと
(特に言語の部分)

行くまでに韓国語の勉強はしていたけれど全く話せず、英語も苦手なので、ジェスチャーと通訳の方を通して伝えることが多くなってしまいました。韓国の子は日本語を話せる子が多かったです。だから韓国の子から話しかけてもらうばかりで、私から話しかけることはほとんどできませんでした。

○浅川巧さんのお墓にお参りして感じたこと

浅川巧さんが荒れた山を木が生い茂る山に戻した話を聞いて、絶対に戻すと言う強い意志と韓国を愛する気持ちがすごく伝わりました。そして体力がすごいと感じました。そんなに偉大で韓国の方から今も愛され続ける方がいたことをこの交流に参加するまで知りませんでした。今度資料館に行ってみようと思いました。

○この事業をとおして、特に身についたと思う力（理由も含めて）

正直身に付いたかどうかはまだわかりませんが、私は文章を書くことが苦手だと思っているので、事前レポートと事後レポートを通して少しでも文章力が身に付いているといいなと思います。
身に着いたとは違いますが、とても短い七日間の交流でしたが友達もたくさんでき、友達が私の話を笑ってくれて、このままの自分でいいのだとあらためて感じました。

山梨・忠清北道 中学生国際交流事業 事後レポート

北杜市立甲陵中 3年 No 8

氏名 森田千皓

○日本と韓国の歴史について学んだこと

二国は長い歴史の中で衝突と共生が何度かあったと感じた。地理的に近いということが要因の一つだ。ソウルの景福宮を訪れたとき、日本がかつて景福宮内に総督府を建設したという歴史を持っている。景福宮は李王朝の王宮である。王宮内に日本の政府の建設物が設置されていることは当時の韓国人にとって支配を印象付けた。

また、韓国のお寺の形、仏像が日本ものとよく似ていたことから、日本と韓国の交流を思わされた。

○異なる文化について特に印象に残っていること

異文化について印象に残っているものがある。それは韓国ではお礼の言葉を日本のように使わないということである。日本の日常では些細なことであっても相手に感謝したり、詫びたりというのが当たり前である。しかし韓国で気づいたのは何度もお礼の言葉を使うというのはその言葉が持つ意味を浅くさせ、また発言した人の気持ちを軽くしてしまうということだ。

韓国に行ってははじめは驚いたが、どうしてお礼の言葉が少ないのか考えると、深く納得した。韓国の方はお礼の言葉の意味を深く考えているから、相手に深い気持ちを感じたときにお礼の言葉を言っている。だから、彼らのお礼の言葉は深い意味を持っている。

○韓国の中学生との交流で特に思い出に残っていること

交流の中で、韓国の学生の優しさや人懐っこさに印象付けられた。学生の多くは日本語を使って話してくれた。彼らは僕達と話すことを楽しそうにしてくれていた。彼らと出会ったのは宿泊先のロビーでそこから夕食を食べた。初めて出会ったばかりなのに、彼らは積極的に日本の学生の座る席の隣に座ってくれた。僕はうまく喋れるか不安だったけど、彼らの積極性に心を開いた。

○韓国の中学生とコミュニケーションとるために努力したことや難しかったこと
(特に言語の部分)

話す中で苦労したのはお互いが知っている言葉が少しニュアンスの違った部分があり、誤解を生むことがあったことだ。頻繁な会話の中で勘違いすることも多かった。同じ言葉のように感じて少し違った意味を持つことにむず痒さを感じるも、韓国側の学生が諦めずに会話してくれたおかげで会話が止まることはなかった。

○浅川巧さんのお墓にお参りして感じたこと

浅川巧さんのお墓を訪れて、文化を学ぶことの大切さを学びました。巧さんは立場や国境、時代の流れに流されずに韓国の文化を受け入れました。そこから、異文化を持つ人たちと分かりあうために次のことを学びました。お互いを理解するにはお互いの特性、性格を理解することが大切です。それを果たすには、お互いの文化を学ぶことが大切だと感じました。例えば、ある国では当たり前のことも別の国では違うことがあります。そうしてお互いが傷ついてしまうことがあるので、それを防ぐために積極的に文化を取り入れることが重要だと浅川巧さんから学びました。

○この事業をとおして、特に身についたと思う力（理由も含めて）

この交流で学んだのは積極性である。韓国側の学生が持っている人懐っこさに、刺激を受けた。日本で生きていて積極性を感じる人に良い印象を抱く。しかしそういった積極性は日本で見られることが比較的少ないと感じた。だから韓国に行って、韓国の学生の多くが持つ素晴らしい積極性に驚いた。交流を通して受け入れるべき能力だと思い、彼らから学ぼうと思った。

山梨・忠清北道 中学生国際交流事業 事後レポート

甲府市立上条中学校 1年 No9

氏名 上野 桃葉

○日本と韓国の歴史について学んだこと

日本はかつて、朝鮮を植民地にしていたこと、朝鮮でも日本語を使うように強要していたことなどを知りました。日本はアメリカから原子爆弾を落とされて、戦争に負けたことはよく知っていたけど、日本も朝鮮に対して、攻撃していたことを知り、悲しくなりました。

そんな中でも、浅川兄弟は、朝鮮に渡り、兄・伯教は、陶磁器の発掘や研究をしたり、弟・巧は、農林学校出身の知識を生かして、植林の活動をしていたりしたことを初めて知りました。

○異なる文化について特に印象に残っていること

韓国はキャッシュレス社会が日本より進んでいました。1日目のホテルでは現金が使えず、何も買えませんでした。日本では現金のみのところがまだまだたくさんあり、現金が使えないことの方が少ないので、びっくりしました。また、研修途中で立ち寄ったゲームコーナーも現金が使えず、韓国の中学生がカードをかざして、ゲームを始めたので、中学生もクレジットカードやプリペイドカードを持っていることが当たり前なのかなと感じました。

二つ目に驚いたことは、韓国のお風呂には湯船がないことです。どのホテルに行っても湯船がなく、ホテルだからシャワーだけで、湯船がないのかと思いましたが、調べてみると「基本的に湯船はない」と書かれていて、初めて知りました。

三つ目は、レストランなどでは、使い捨てのわり箸ではなく、アルミ製の箸が出ることです。とてもエコだなと思いました。

○韓国の中学生との交流で特に思い出に残っていること

ホテルでカードゲームをしました。言葉はあまりわからなくても、楽しくゲームができて、仲良くなれました。

焼肉屋さんでは、楽しくお肉を焼いて、本場の味を楽しむことができました。

ロッテワールドでは、とても仲良くなれました。遊園地は世界共通なんだと思いました。

韓国の中学生のおすすめのお菓子をお土産でたくさん買って帰りました。おすすめどおり、とてもおいしかったです。

○韓国の中学生とコミュニケーションとるために努力したことや難しかったこと
(特に言語の部分)

学生ボランティアの方に「～は韓国語で何て言いますか？」と尋ね、たくさん教えてもらいました。聞いて、覚えて、実際に使うように努力しました。発音がどうしてもやっぱり難しかったので、韓国の中学生に聞いて、覚えるようにしました。

韓国の中学生は日本語ができる人が多く、日常会話が日本語でできていて、すごいと思いました。来年、また参加できるように、私は、韓国語や英語を頑張りたいと思いました。

○浅川巧さんのお墓にお参りして感じたこと

山の上の自然の中にお墓があり、韓国の方からとても大切にされた方ということを感じました。また、特別なお墓やもっと大きいお墓を想像していたけど、ごくごく普通のお墓でもあり、韓国の人と変わらない方だったのかなとも思いました。

浅川巧さんが、山梨県出身であることを誇りに思いたいです。浅川巧さんのように、誰かのためになる生き方を私もしていきたいです。

○この事業をとおして、特に身についたと思う力（理由も含めて）

始めは、知らない中学生と一緒に、しかも私は1年生で、年上ばかりでとても緊張しました。韓国の中学生と仲良くなれるかも心配でした。日本人にも、韓国の人にも自分からたくさん話しかけて、仲良くなりました。

帰るころには、買い物をして、韓国語でありがとうが自然に挨拶ができるようにもなりました。韓国語も学校の英語も頑張りたいと思います。

この事業をとおして、相手が何を言おうとしているか想像する力がついたと思います。また、仲良くしようとする気持ちがあれば、言葉がわからなくても気持ちは伝わったり、わかったりすることを学びました。

山梨・忠清北道 中学生国際交流事業 事後レポート

都留第二中 2年 No10

氏名 岡歩

○日本と韓国の歴史について学んだこと

日本と韓国の歴史はいい歴史や悪い歴史などがあるがどちらも事実なのでちゃんとした歴史を残し伝えていたと思います。それ以外でも浅川巧さんなどの日本人が韓国の人たちに頑張っていた歴史などもあるので僕もできるなら些細なことでもいいから応援がしたいです。それと浅川巧さんたちが築いた日韓の関係を良好のままいきたいです。そのためにこのような中学生の交流事業は積極的に参加したいです。

○異なる文化について特に印象に残っていること

一番印象に残った異なる文化はキムチの辛さが日本とは別の食べ物ぐらい辛かったです。僕は辛いのが好きだけど得意というわけではないのでおいしかったけど最後まで食べきれない日もありました。でも韓国の本場のキムチはとてもおいしかったです。日本のキムチの辛さは控えめで多分日本人は辛いものにそんな慣れていないけど僕はいつかは韓国のキムチに慣れて食べれるようになりたいです。

○韓国の中学生との交流で特に思い出に残っていること

韓国の中学生との交流で特に思い出に残ったことはロッテワールドです。僕はあまりジェットコースターは得意ではないけど同じ班の韓国の中学生や日本の中学生と一緒にジェットコースターに乗れてとても楽しかったです。僕はインスタなどをやっておらずもう連絡は取れないけどこの思い出は一生忘れないとてもいいものになったと思います。来年は3年生で受験のことも考え始めるけど次回もいければ行きたいと思います。

○韓国の中学生とコミュニケーションとるために努力したことや難しかったこと
(特に言語の部分)

日本語と韓国語はそもそも発音の違いなどがありコミュニケーションは取りにくかったです。でも通訳をしてくれるチームリーダーや翻訳ソフトのおかげでちゃんとコミュニケーションがとれてよかったです。それと僕は2回目の日韓交流でしたがちゃんと覚えているのはアニョハセヨだけで恥ずかしいのでこの日韓交流を通じて韓国語の勉強も始めてみようかなと思いました。

○浅川巧さんのお墓にお参りして感じたこと

浅川巧さんが日韓の関係の基礎を築いてくれたので僕たちはこの関係を維持向上させないといけないが中学生の僕たちにできるのはこの事業のような日韓の交流事業に積極的に参加したいです。来年の日韓交流は受験などで行けるかわからないけど高校生になったら別の日韓の交流事業などに参加したいです。それと日本人のお墓が韓国にあることはとても驚きました。なぜなら日本には外国人のお墓は戦争などで亡くなってしまった外国人などしか僕は知らないので自国にほかの国の人のお墓があることはすごいことだと思いました。

○この事業をとおして、特に身についたと思う力(理由も含めて)

この事業を通して身についた力は計画力だと思います。なぜならソンハンギルなどで買い物をしたりロッテワールドで買い物をしたりしたときに次のロッテワールドは何ウォン使うからソンハンギルではこれくらい使おうという計画をいつも以上に考えました。たぶんいつもとは違う通貨なのでつかうときに慎重に考えました。この力を生かして勉強などにも生かしていきたいです。

山梨・忠清北道 中学生国際交流事業 事後レポート

甲府市立北東中 3年 No11

氏名 古川琴美

○日本と韓国の歴史について学んだこと

昔、日本が韓国を支配していた時代があったが、同じ時代に韓国の人たちのために働いた浅川巧さんのような人もいて、韓国にお墓があることを知りました。歴史には悲しいこともあるけれど、だからこそお互いを理解して仲良くしていくことが大事だと今回の交流事業でより思いました。

○異なる文化について特に印象に残っていること

韓国の子たちはお財布を持ってなくてカード決済だった。

日本人より韓国人のほうが積極的に前に出ていた。

右側通行ではなく左側通行だった。

ご飯が出るときに小皿がすごく多かった。

○韓国の中学生との交流で特に思い出に残っていること

韓国で流行っているものや韓国の子が好きなものなどをくれたり、教えてくれた。

お互いの似顔絵を描いたり言語を教えあったりした。

お互いの国の曲を一緒に歌った。

○韓国の中学生とコミュニケーションとるために努力したことや難しかったこと (特に言語の部分)

翻訳アプリを使うこともあったけど自分が知っている韓国語を単語で会話してみるなどあまり翻訳アプリに頼らないように努力した。

翻訳アプリでもたまに誤訳してしまっているときがあって会話がかみ合わなかったりしたのが大変だった。

○浅川巧さんのお墓にお参りして感じたこと

日本人が韓国でも大事にされていることを知りました。国境を越え人々の為に尽くした生き方がすごいと思いました。相手を思いやる姿勢を大切にしていきたいと思いました。

○この事業をとおして、特に身についたと思う力（理由も含めて）

コミュニケーション能力が高くなったと思います。

韓国の方は日本人よりも比較的たくさん話しかけてくれたので自分も初対面の人とより積極的に話せるようになったと思います。

今回の事業はみんなの前で話すことがたくさんあったので、前にでて話すことが得意になりました。以前の自分は人の前で話すことが苦手だったのですが、話し終わった後に韓国の友達がたくさん反応してくれたので自分に自信がついたし、話すことにあまり緊張しなくなりました。

山梨・忠清北道 中学生国際交流事業 事後レポート

山梨大学教育学部附属中 3年 No12

氏名 五月女日南

○日本と韓国の歴史について学んだこと

今回の日韓交流事業を通じて、日本と韓国の歴史について学ぶことができました。これまで教科書で知っていた内容に加えて、交流を通じてより深く考えるきっかけになりました。特に、日本と韓国は古くから文化や技術の面でつながりがあったことを改めて理解しました。

一方で、近代の歴史には両国の間で厳しい時代もありました。そのことについて、韓国の学生と話すことで「同じ歴史を学んでいても感じ方や伝え方が異なる」という気づきを得ました。歴史を共有することの難しさを感じると同時に、だからこそ対話を続けることが大切だと思いました。

今回の学びを通して、過去の歴史を正しく理解することが、未来に向けて良い関係を築く第一歩になると強く感じました。

○異なる文化について特に印象に残っていること

韓国の文化の中で特に印象に残ったのは、伝統衣装です。韓国には「韓服（ハンボク）」と呼ばれる伝統衣装があり、色鮮やかで形も美しく、特別な日や行事で着られていると知りました。日本の和服と似ている部分もありますが、色づかいやデザインには韓国らしい独自の雰囲気があり、とても新鮮に感じました。

伝統衣装を通して、文化の違いを学ぶことはもちろん、自分の国の文化を改めて見直すきっかけにもなりました。違いがあるからこそお互いを理解し合えることの大切さを感じました。

○韓国の中学生との交流で特に思い出に残っていること

韓国の中学生との交流の中で、特に思い出に残っているのは、一緒にゲームやスポーツをした時間です。最初は言葉の壁があっとうまく伝わるか心配でしたが、身振り手振りや簡単な英語を使うことで、次第に笑顔でコミュニケーションがとれるようになりました。お互いに通じ合ったときのうれしさは、今でもはっきり覚えています。

また、韓国の友達が自分の学校生活や趣味について話してくれたことも印象的でした。日本と似ているところもあれば、違うところもあり、話しているうちに自然と興味が広がりました。短い時間でしたが、同じ中学生同士としてすぐに打ち解けられたことが、とても大きな思い出になりました。

○韓国の中学生とコミュニケーションとるために努力したことや難しかったこと
(特に言語の部分)

韓国の中学生と交流する中で一番大変だったのは、やはり言葉の違いでした。日本語はほとんど通じず、韓国語も分からなかったので、最初はどう話しかければよいのか戸惑いました。そこで、私はできるだけ簡単な英語を使ったり、ジェスチャーを交えたりして伝えようと努力しました。また、スマートフォンの翻訳アプリを使って、わからない単語を調べながら会話を続けるようにしました。

うまく伝わらずに何度も聞き返されたときは恥ずかしく感じましたが、その分、相手が理解して笑顔を見せてくれたときの喜びはとても大きかったです。言葉が完全に通じなくても、「伝えたい」という気持ちがあれば分かり合えることを実感しました。この経験を通して、もっと韓国語を勉強して、次の交流ではより深い話ができるようになりたいと思いました。

○浅川巧さんのお墓にお参りして感じたこと

今回の交流事業で、浅川巧さんのお墓にお参りする機会がありました。実際に手を合わせてみて、教科書や資料で読んだだけでは分からない「人と人とのつながりの大切さ」を強く感じました。

浅川さんは日本人でありながら、韓国のために活動を続け、多くの韓国の人々に信頼されました。その功績によって今でも現地で敬われていると知り、とても感動しました。歴史の中では国と国との関係が難しい時代もありましたが、浅川さんのように一人の人間として真心を持って接すれば、国境を越えて信頼を築けるのだと学びました。

○この事業をとおして、特に身についたと思う力(理由も含めて)

この事業を通して、特に身についたと思うのは「コミュニケーション力」です。韓国の中学生と接するとき、言葉の壁があり思うように伝わらないことが多くありました。しかし、英語を使ったり、身振り手振りで表現したりする中で、相手に伝える工夫をする力が少しずつ身についたと感じました。

また、相手の話を最後までよく聞き、分からないところを質問する姿勢も大切だと学びました。日本の友達と話すときには気づかなかったことですが、言葉が違う相手だからこそ「相手の気持ちを理解しようとする態度」が重要だと実感しました。

この経験は、これから外国の人と関わるときだけでなく、日常生活の中で友達や先生と話すときにも役立つと思います。人と人との関係を築く上で必要な力を伸ばすことができたことが、今回の事業で得た一番の収穫でした。

山梨・忠清北道 中学生国際交流事業 事後レポート

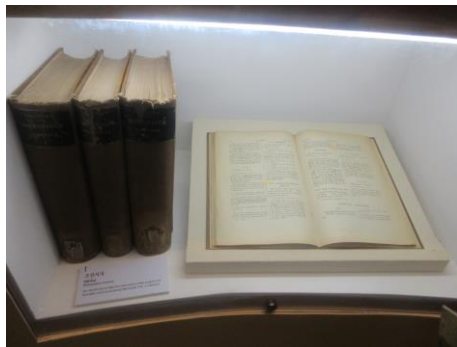
若草中 1年 No13

氏名 雨宮陽咲

○日本と韓国の歴史について学んだこと

- ・1992年に姉妹都市締結をし、文化や言語などを通して発展してきたことが分かった。

これまで、文化の交流や浅川巧さんたちの行動が今の日本と韓国の歴史を築いていることを学びました。韓国の歴史ある展示を見て、昔の人がつくってきてくれた今の世の中だということがより実感できました。今、私たちが交流することによって、これからの日本と韓国の関係をより良好に保ちながらお互いを尊重してさらに交流できるようにしていくことが大切なんだと感じました。



○異なる文化について特に印象に残っていること

- ・ 韓国の人、朝風呂に入ること。
- ・ 美容大国だけあり、スキンケアなどを倍以上行っていることです。デパートでは、化粧品がたくさん売っていました。中学生でも、お化粧をするのが当たり前の文化なんだと思いました。それくらい、小さいときから美容に対する意識が高いのだと感じました。
- ・ コンビニ（GS 25）はカードしか使えなかったことです。ローカルなお店ほど現金が使えなくて、電子マネーが進んでいると思いました。



←韓国のボーリング場

ストライクを取ったら音楽がなったりライトが光ったりして流行の最先端を感じました。



←韓国の民族衣装 韓服

着てみたら暑かったです。着物と比べると歩きやすくて、お腹が締め付けられる感じがなくてよかったです。



←韓国のプリクラの機械

飛行機のトイレやエレベーターの中のような背景が選べて面白かったです。



←韓国の食事

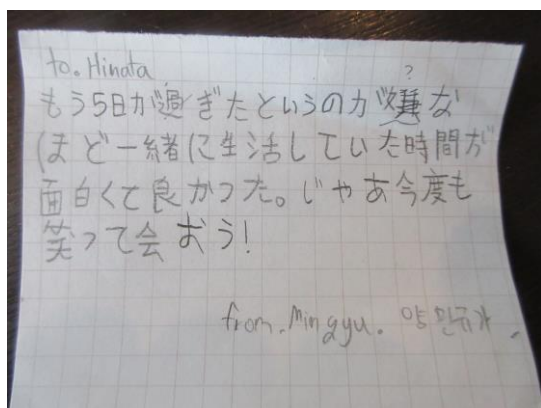
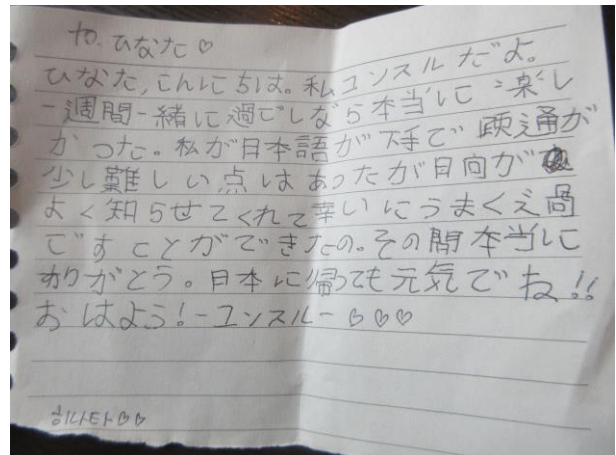
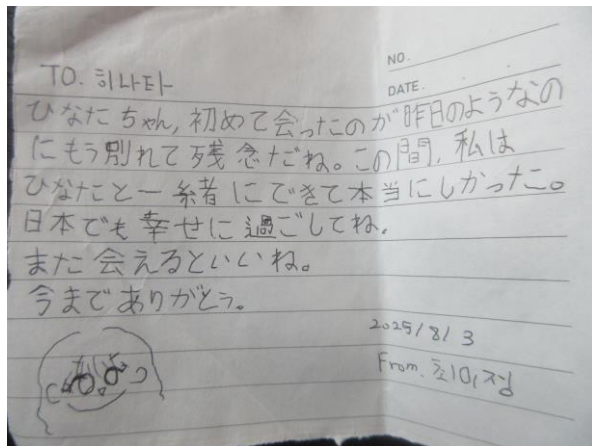
いつでもキムチが出てきたので、今まで食べられなかったけど少し食べられるようになりました。日本の方が甘味があっただけおいしいと感じました。焼肉はおいしかったです。はしやスプーンは鉄でした。

○韓国の中学生との交流で特に思い出に残っていること

- ・2日目の初めての自由時間の時に、「一緒にコンビニ行こう」と誘ってもらったことです。カード払いしかできないコンビニで、現金しか持っていなかったから買えないでいたら、私の分のジュースを払ってもらってしまいました。私も韓国の中学生が日本に来て払えなかったら、今回のお礼をしたいと思いました。
- ・韓国語を教えてもらって、たくさん話せたことです。相手の中学生も日本語を覚えてくれて、コミュニケーションの輪が広がりました。韓国の中学生は、「アニメを見て日本語を覚えた」と言っていたので、私も好きなことから韓国語を勉強してみようと思いました。

韓国の中学生からもらった手紙↓

文字も文も、日本語が上手でびっくりしました。私も韓国語で名前は書けるようになったけど、次は手紙が書けるように勉強しておきたいです。



○韓国の中学生とコミュニケーションとるために努力したことや難しかったこと
(特に言語の部分)

できるだけ知っている所は韓国語で話すように努力しました。韓国語を覚えたりして、韓国の中学生も日本語を使ってくれるので、コミュニケーションが取りやすくなりました。また、伝わるように身振りを加えたり、ゆっくり話してみたり、繰り返し言ってみたりするとコミュニケーションが取りやすくなったので、さらに仲良くなれました。あと、とにかく笑顔を心掛けました。分かろうとしようとしていることがお互いに伝わるので、教えたいと思えるし、思われたんじゃないかなと思っています。スマホがなかったので、翻訳機に頼らずコミュニケーションを取るために必死に覚えました。逆にスマホがなくて良かったなと今では思います。

○浅川巧さんのお墓にお参りして感じたこと

何もなかった山に種をたくさんまいて、普通は2年かかるところを、ある方法を使って1年でやってしまったことがすごいと思いました。それも、韓国と日本がよくない関係だったときに、わざわざそういうことをやったことは、色々な苦労や困難もあった中で、改めてすごいと思います。お墓にお参りして感じたことは、周りのお墓よりも高く大きかったので、亡くなってからもそうやって守られているということは、本当にすごいこと成し遂げた人ということが良く分かりました。日本人のお墓を、手入れしてくれたり守ってくれたりしているのは、韓国の人にも大切にされているんだなと思います。日本人として、時間をかけて守ってくださる韓国の方たちにも感謝しなければならなかったと思いました。浅川さんがいたから、今の日本と韓国の関係があることが分かり、私がこうやって韓国の中学生と交流できるのもそういった昔の人の努力のおかげなんだと感じました。本当に感謝です。



お墓の場所も高いところにありました。高いところから優しく見守ってくれているような気がしました。

○この事業をとおして、特に身についたと思う力（理由も含めて）

① 初対面の相手とも積極的に話したり、コミュニケーションをとったりする力。

最初はとても緊張していて、韓国人とも日本人とも上手く話せなくて困ってしまっただけ、1日目の夜と次の日で部屋が同じ人や班が一緒の人とすごく仲良くなれて、だんだんとコミュニケーションをとることができたからです。

そして、笑顔は大事です。初めのころは何を言っているのか全然分からなかったのに、とにかく笑っていたら、韓国の中学生在がたくさん話しかけてきてくれて助かりました。何事も楽しむ気持ちは、これからも大切にしたいと思った経験になりました。

山梨に帰ってきて、お店に買い物にいった時に自然と「カムサハムニダ」とか「ケンチャナ」とか韓国語が出てきてびっくりしました。今は家族みんなですごくいただきますとごちそうさまを韓国語で言っています。英語よりも韓国語を勉強したいと思っています。

② 分からなくても諦めずに行動する力。

韓国の文化や韓国語が分からなくても、諦めずに積極的にコミュニケーションを取ること、一歩前進したり、成長したりできたからです。この交流事業に参加することも、一歩踏み出せたからできた経験がたくさんあったので、行動することは大事だと思いました。

日本を外国から見つめることで、日本のよさにも気づけたし、家族やいつも一緒にいる先生や友達の大切さにも気づけました。行くまでは、どうかなと心配なこともありましたが、事業に参加して今すぐでも韓国に行きたいって思えるくらい韓国が好きになりました。将来、いつか韓国で生活してみたいという思いも強くなりました。また、韓国の中学生に会って一緒に遊んだり勉強したりして過ごしたいです。

山梨・忠清北道 中学生国際交流事業 事後レポート

甲府西中 2年 No 1 4

氏名 金岡泰成

○日本と韓国の歴史について学んだこと

日本の文化の多くは韓国からきていることを知った。浅川巧さんは日本と韓国の関係に深くかかわっていることを知った。

○異なる文化について特に印象に残っていること

金属製の箸が重くて食べ辛かったし指が吊りそうになったけれど少し味が美味しく感じました。

韓国の人は全員指がムキムキになってそう。全ての料理がこの世の唐辛子が韓国に集結しているのかと思わせるぐらいに容赦なくからかった。韓国人の言う辛いのは嘘。虫の蛹が人間の食べ物として提供されていることが驚きだった。韓国のコーンフレークに入っているサクサクなマシュマロが美味しかった。サクサクマシュマロを箱買いして口いっぱい詰めた。

日本でよく見る神社とは違い、カラフルでお洒落でとても大きかった。とってもセレブな雰囲気漂っていた。吸った息を吐き忘れるほど素敵な風景が広がっていた。お寺にある岩がとても大きくて、ヨガしているのじゃないかっていうぐらいぎりぎりのバランスを保っていた。

○韓国の中学生との交流で特に思い出に残っていること

辛い物いっしょに食べて楽しく話したこと。

夜こっそり他の部屋へ行ってパーティーしたこと。

韓国の学生が想像以上に日本語をしゃべれたこと。

自由時間にお勧めの店を教えてもらって、お勧めのお菓子やおもちゃを買ったこと。

2日目の交流で1位になったこと。

新しいピースのやり方を編み出したこと。

いっしょにプリクラを取ったこと。

一緒にカードゲームをしたこと。

日本のお菓子をおいしいって言ってくれたこと。

みんな優しくしたこと。翻訳に頼っていたこと。

いっしょにアイス買ったこと。

ジュースやアイスをおごってくれたこと。

みんなイケメンだったこと。

大統領の別荘を自分の家だと自慢したこと。

○韓国の中学生とコミュニケーションとるために努力したことや難しかったこと
(特に言語の部分)

韓国語で 15 分が脂肪分なことにクスッときた。韓国の文字は 3 つほどの文字があわさってひとつの文字ができていることが驚きだった。韓国人は日本のことをイルボンというらしい。翻訳に頼っていた。英語でどうにかなった。正直そこまで困らなかったからここまでにする。

○浅川巧さんのお墓にお参りして浅川巧さん感じたこと

とっても暑かった。でもこの人のおかげでこの交流が出来たと考えたらとてもありがたかった。この機会は一生忘れないと思う。ほんとに感謝しています。

○この事業をとおして、特に身についたと思う力（理由も含めて）

異国の人と話していくうえでコミュニケーション能力がついたと思う。韓国で様々なものに挑戦していくうえで、行動力が付き、自信を強く持てるようになった。

山梨・忠清北道 中学生交流事業 事後レポート

押原中 3 年 No15

山本春花

○日本と韓国の歴史について学んだこと

山梨県出身の浅川兄弟が朝鮮半島に行き、木を植えて森を作る緑化事業に力を尽くした。浅川巧さんは韓国の墓地に埋葬されている。この浅川兄弟が韓国と山梨の結びつきを強めるきっかけになった。

山梨県と忠清北道は 1992 年に姉妹友好都市になった。

○異なる文化について特に印象に残っていること

食文化

韓国ではほぼ毎食キムチがある。スプーンやフォークだけでなく箸も金属でできていることが多い。キムチはもちろん、それ以外でも辛い食べ物が多い。

服

チマチョゴリは長袖ですごく暑い。

ハングル

日本語とは違い子音を表す部分と母音を表す部分があり、それが組み合わさってできている。

○韓国の中学生との交流で特に思い出に残っていること

2 日目の特技発表で、班のみんなで歌を歌ったこと。

自由時間のときにいっしょにアイスを食べたり、韓国のプリクラをとったりしたこと。韓国の友達がおいしいお菓子を教えてくれたり、実際にくれたりしてうれしかった。

ボードゲームをいっしょにして、違う国同士だけど盛り上がったこと。

○韓国の中学生とコミュニケーションをとるために努力したことや難しかったこと
(特に言語の部分)

同じ班の子が日本語を結構知っていたので、簡単な言葉を使うようにしてわかりやすくしたこと。日本語がわからない人には英語でしゃべったりジェスチャーで伝えられるようにしたりしたこと。SNS でやり取りするときには翻訳を使って会話するようにした。翻訳がうまくいかないことがあって正しい意味を伝えるのが難しかった。

○浅川巧さんのお墓にお参りして感じたこと

ガイドさんが浅川兄弟について説明してくれたり、お墓がすごくきれいだったり浅川巧さんが韓国の人々から尊敬されていると感じた。
同じ県出身の人が韓国で活躍して尊敬されていることを知って誇らしくなった。自分も何か少しでもいいからほかの国のためになることをしたいと思った。

○この事業をとおして、特に身についたと思う力（理由も含めて）

積極的に行動する力

韓国の中学生と友達になるために自分から話しかけたから。

一人で生活する力

今まで1週間家族と離れたことがなかったから、荷物の準備・片付けやお金の管理など身の回りのことを自分でするようになったから。

山梨・忠清北道 中学生国際交流事業 事後レポート

山梨学院中 3年 No16

氏名 奥村 眞浩

○日本と韓国の歴史について学んだこと

日本が日本人の努力のみで経済が成長していないことと同じく、韓国の経済成長には日本人などの色々な国の人々が尽力していて、その色々な人間の中に山梨県民の浅川兄弟が居ると言うことを初めて知った。また、その成果もあり、「漢江の奇跡」という経済成長が起こったと学んだ。

○異なる文化について特に印象に残っていること

私の家では子供の頃から将棋、折り紙、けん玉、かるた、百人一首、凧揚げ、あやとり、お手玉などの日本古来の遊びなら少しは行った事があり、遊ぶことも出来るが、コンギ遊びやメンコ返しなどのあまり馴染みが無く、あまり上手にできなかった。しかし、韓国の学生たちは皆その様な遊びが上手で驚いた。

○韓国の中学生との交流で特に思い出に残っていること

ソウルでの自由時間で私が妹へのお土産を買おうとしていた時に、最近韓国で流行っているアイドルのアルバムやグッズ、韓国で人気な化粧品など、様々なことを教えて貰いながらプレゼントを選んだこと。

○韓国の中学生とコミュニケーションとるために努力したことや難しかったこと (特に言語の部分)

伝えることが難しい単語や日本独自の言い方や慣用句などは翻訳アプリなどを使ったが、知らない韓国語はジェスチャーや簡単な韓国語に言い換えて伝え、相手にどうにかして伝えようと頑張った。また、2日目のレクの準備時間や自由時間で何を行いたいかなどを聞かれた時に具体的に歌いたい曲や行きたいお店やしたいことを言い、なるべく韓国側の中学生を困らせることがないように努力をした。

○浅川巧さんのお墓にお参りして感じたこと

お墓参りをするまで『日本人のお墓が韓国にある』ということの意味や凄さがあまり実感できていなく、少し軽率に考えていたが、とても整備されていることや多くの韓国人や他の観光客がいて、『高くて遠い日本人のお墓に韓国人がわざわざ来る』ということの意味や浅川さんの活躍がよく分かった。また、お墓から浅川巧さんが愛して尽力したソウルの街並みが見えてソウルの人達の思いやりが感じられた。

○この事業をとおして、特に身についたと思う力（理由も含めて）

今までは『外国の人は怖い』というイメージが少しあり、外国人とはあまり話したくないという気持ちがあったが、この交流で韓国の学生と実際に触れ合ってみて、そのような偏見は全くなく、逆にとてもフレンドリーで外国人の苦手意識がなくなり、会話力やコミュニケーション能力が上がったと思う。

山梨・忠清北道 中学生国際交流事業 事後レポート

明見中 1年 No17

氏名 宮下希子

○日本と韓国の歴史について学んだこと

私が日本と韓国の歴史について学んだことは、日本は「着物」を着て、韓国は「韓服（ハンボグ）」を着ることです。日本の着物は、結婚式や成人式、卒業式、お祭りなどの大切な場面や、特別な場面で着られることがおおいです。韓国の韓服は、結婚式やお正月、お盆にある行事、一歳の誕生日などの家族や国の行事で着ることが多いです。着物や韓服はどちらも昔は日常で着られていましたが、現在では行事や、特別な日に着る伝統衣装になっています。私は韓服を実際に着て見てスカートの色がたくさんあって選ぶところがとても楽しかったです。韓服はスカートが広がっていて思った以上に歩きやすかったです。ですが、何枚も布を重ねて着るので少し暑かったです。実際に着て見て美しいと思うけど昔の人はあれを毎日着ていたと思うとすごいと思いました。日本と韓国では着る伝統衣装は違うけど、実際に体験してみるとその国の歴史を感じることができました。



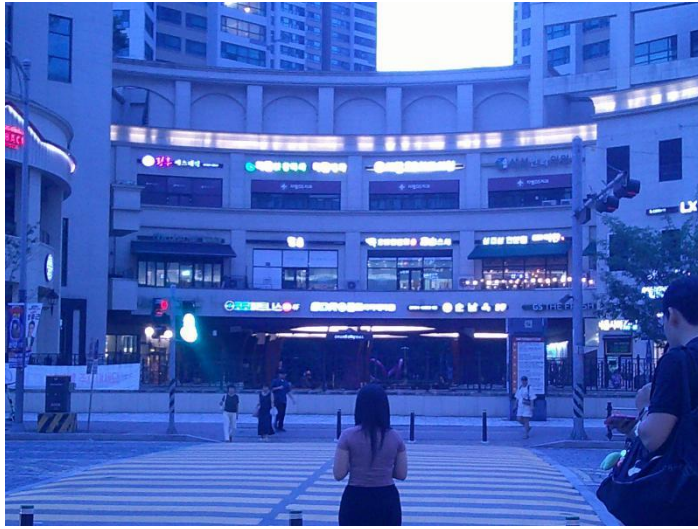
○異なる文化について特に印象に残っていること

私が韓国に行って見て異なる文化について印象に残っていることは、日本とは違う食事マナーがあるということです。特に、「食べきらないことがマナーになる場面がある」というところが印象に残っています。日本では、料理を残さずにきれいに食べるというのが良いマナーとされているので実際に行ってみて驚きました。韓国では、料理をすべて食べきってしまうと「足りなかったのかな？」と思われてしまうことがあるそうです。なので、少しだけ料理を残すことで「もうおなかがいっぱいです」という意味になるということを知りました。私は今まで食べきることが当たり前だと思っていたので、韓国の食事マナーを知って文化によってマナーや礼儀が違うのだと知りました。また、韓国の料理を実際に食べてみてとてもからかったのですが韓国の料理が辛い理由は、韓国の気候や、保存の工夫などが韓国の料理が辛い理由だそうです。ほかにも、辛い物を食べると体が温まるので寒さ対策としても食べられているそうです。



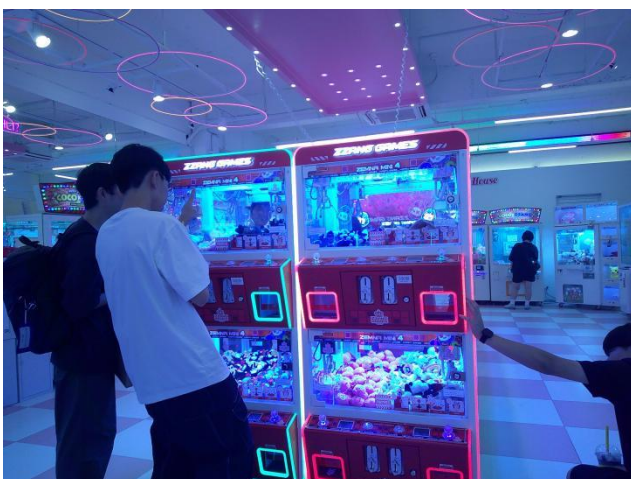
○韓国の中学生との交流で特に思い出に残っていること

私が韓国の中学生との交流で思い出に残っていることは、2 つあります。1 つ目は、いっしょにスーパーや百貨店、コンビニなどに行って買い物をしたり、一緒にご飯屋さんでご飯を食べたことです。スーパーやコンビニでは「このお菓子がおすすめ」や「このカップラーメンおいしい」などと韓国の食べ物のおすすめを教えてくれたことです。ご飯屋さんでは、トッポッキ、サムゲタンなどの韓国の料理を食べました。トッポッキは、見た目がすごく赤くて辛そうだったけど実際に食べて見るともちもちしてておいしかったです。サムゲタンは、初めて食べてみて鶏肉の中にもち米などいろいろな食べ物が中に入っていてすごく健康に良さそうだなと思いました。2 つ目は、韓国の伝統的な遊びをやったことです。その中でも私はコンギがとても楽しかったです。見たことはあったけどどうやってやるのかわからず韓国の中学生がすごく上手だったのでやり方を教えてもらいながら楽しくやりました。ほかにも、韓国の伝統的な服を着たり、ボクシングをしたり、ロッテワールドで遊んだりしてとてもいい思い出になりました。



○韓国の中学生とコミュニケーションとるために努力したことや難しかったこと
(特に言語の部分)

私は韓国に行く前に、韓国語であいさつや自己紹介、簡単な会話ができるように事前に練習して、話せるように努力をしました。でも、実際に韓国に行ってみると韓国の中学生たちの話すスピードが速くて最初は自分が伝えたいことを韓国の中学生にうまく話すのが難しかったです。発音や聞き取りも難しく韓国の中学生と話すのが大変でした。そこで私は、言葉だけでは伝わらないときにはジェスチャーをつかったり、しっかり反応を返したりすることを心がけて、少しでも会話がスムーズになるように工夫しました。また、韓国の中学生が言ったことを聞き返したり、韓国の中学生に「これはなんていうの」と質問したりして、簡単な韓国語や英語を混ぜて話すことで、だんだんと会話が続くようになっていきました。今回、韓国の中学生と実際に話してみても、言葉が完全に通じなくても色々と工夫や努力をすれば、言いたいことはきちんと伝わるんだなと感じました。



○浅川巧さんのお墓にお参りして感じたこと

私は浅川巧さんのお墓にお参りをしに行ってみて、もともと私は、浅川巧さん（浅川兄弟）のことをあまり知りませんでした。ですが、韓国に行く前に少し浅川巧さんについて調べてみて、私たちと同じ山梨県で生まれた日本人が、韓国で今でも多くの人に愛されていることを知りました。実際にお墓に行ってみると、お墓にはハングル文字で書かれていて、そこには浅川巧さんが韓国で大切にされている理由が込められているように感じました。私は、同じ山梨県で生まれた日本人が、国をこえて尊敬されていることを、とてもすごいと思いました。そして、自分と同じ山梨県出身の人がこんなに多くの人に愛されているのは、すごいなと思いました。この経験を通して、言葉や国の違いがあっても、人を思いやる気持ちはちゃんと伝わるんだと感じました。これからは、相手を思いやる気持ちを忘れずに過ごしていきたいと思います。



○この事業をとおして、特に身についたと思う力（理由も含めて）

私が今回、韓国での交流を通して身についたと思う力は、「反応やあいさつ、返事を大きな声でする力」だと思います。理由は、韓国の中学生と6日間いっしょに過ごしてみて韓国の中学生は自分から大きな声で反応し、いつも元気に、はっきりとした声であいさつや返事をしていました。私は、中学生になってからは、小学生の時よりも反応やあいさつを大きい声でするように意識してきました。しかし、韓国の中学生と比べるとまだまだ声の大きさや元気さが足りないと感じました。韓国の中学生を見て、もっと積極的に、相手に伝わるような声を出すことが大切だと学ぶことができました。また、大きな声で反応などをされるとうれしい気持ちになるのでこれからの学校生活では、今まで以上に大きな声であいさつをしていきたいと思います。そしてこの事業で学んだことを普段の生活に生かしていきたいです。



山梨・忠清北道 中学生国際交流事業 事後レポート

山梨学院中 2 年 No18

氏名 若尾天真

○日本と韓国の歴史について学んだこと

韓国での交流の中で、博物館のようなところや大統領がもともと住んでいた場所を訪問し、日本と韓国の歴史を知る事ができました。

博物館では、昔から今(現代)まで人類の進歩を知れたと思います。朝鮮半島がどのようにして未来に技術を残したのかなども詳しく知れました。また、朝鮮半島と日本の交流が昔からあり、影響を与えていたことも知りました。大統領がもともと住んでいたところでは、韓国が民主化を進める過程や、家族を守るための工夫を感じました。ガイドさんの説明を受け、このような様々なことを知れました。

これからも両国の文化を受け入れて交流していくのも大切だなとあらためて思いました。

○異なる文化について特に印象に残っていること

一番印象に残っていることは「食文化の違い」です。

事前レポートでお碗をもって食事をしないというのは知っていました。しかし、なぜ碗を持たないのかはわかっていませんでした。韓国人の友達が「銀の器は熱いから持たないんだよ」と教えてくれました。僕はそのまま韓国の食事のマナーを教えてもらいました。

例えば、「(好きなものや)熱いものは右側に置く」、「箸は右、スプーンは左に置く」ということです。

こんなに近い国同士なのに、多くの食事マナーの違いがあることにとても驚き、興味を持ちました。

○韓国の中学生との交流で特に思い出に残っていること

僕が思い出に残っているのは、(韓国人との)最後の日のロッテワールドです。自分たちの班はあまり絶叫に乗れる人が少なかったですが、みんなの意外な一面を知れました。

どれがおいしいご飯なのか、楽しいアトラクションなのか、様々なことを教えてくれました。そこで、改めてみんなの優しさを感じました。

ロッテワールドから出た後、みんなとお別れするとき、写真をみんなととって、「泣かないよ」と話していました。でもいざ、みんながバスに乗り始めたとき、みんなからの色々な言葉をもらっているうちに、泣いてしまいました。その後、DMなどでみんなと話して、また会おうと約束をしました。悲しかったけど、貴重な経験で、思い出になりました。

○韓国の中学生とコミュニケーションとるために努力したことや難しかったこと（特に言語の部分）

僕は韓国語を少ししかしゃべれません。なので、韓国人との交流の際は主に英語を使用し、たまに韓国語や日本語を交えて仲を深めていきました。

仲を深めるために、お互いに韓国語や日本語を教えあったり、ボードゲームなどのゲームを遊んだりしました。そういうことをしていくうちに、最初は言語の壁がありましたが、言語の壁を越えて話す事ができました。

しかし、k-popアイドルなどの話になると、日本と韓国では英語(外来語)の発音が違うため、その部分での理解にとっても時間がかかりました。また、英語でもたまに伝わらないところがあったため、日本語が話せる韓国人の子に助けてもらいました。

みんなとてもやさしく、言語の壁があったとしても、充実した交流会にする事ができました。

○浅川巧さんのお墓にお参りして感じたこと

韓国で、自分たちと同じ日本人で山梨県出身の方が現地の人々から今も尊敬されている浅川巧さんのお墓があることをこの交流会で初めて知りました。浅川巧さんは日本統治時代に韓国で林業の発展などに力を注ぎ、現地の人々と同じ生活を送りながら信頼関係を築いたと聞き、尊敬の念を持ちました。

当時は国同士の関係があまりよくない(緊張していた)時代だったのにもかかわらず、その中でも一人の人間として相手を尊重し、地域の発展のために働き続けた姿勢にとっても感動しました。

歴史には争いや悲しい出来事もありますが、浅川巧さんのように心を通わせる行動は、時代や国を超えてつながれていくんだなと思いました。

○この事業をとおして、特に身についたと思う力（理由も含めて）

この交流会を通して僕が一番成長したと感じるのは「積極性」です。韓国では最初、言葉や文化の違いから最初は自分で話しかけることにためらいがあり、少ししか話せませんでした。でも、先生方に「積極性」を高めてほしいなどと言われてから、勇気を出して質問など話しかけてみました。すると、相手(韓国人の子)も笑顔で答えてくれたり、会話がはずんだりして、初めて会った人とも短時間で仲良くなれました。

まだ、いろんなことに手を出せているわけではありません。けれど、積極的に行動することで、自分の世界が広がり、新しい考え方が生まれます。これからはもっと積極性を高めて、韓国の子たちにも見てもらいたいです。

山梨・忠清北道 中学生国際交流事業 事後レポート

楡形中 3年 No19

氏 名 加藤 真奈香

○日本と韓国の歴史について学んだこと

私が今回の交流で韓国について学んだことは、2つあります。1つ目は韓国の朝鮮活字です。私は韓国に対して活字についてのイメージはあまりありませんでした。ですが、初めて韓国の金属活字について学んでとても面白いと思いました。金属活字は韓国が最初に始めたとされていて、実際に現地で見たように土に鉄を流し入れます。そして活版が作られます。その過程の中で一度に作りたい面の活版をするのではなく1文字1文字を活版にしてそれを並べてひとつの本を作ったそうです。そのような新しいものを生み出したり発展させていく力が韓国人にはとても備わっているのだと実感しました。

今では日本も韓国も先進国のひとつとして新しい技術が求められているので、将来的には韓国人と日本人が共同で世界を発展させて行けるような社会が作れると良いと思いました。

○異なる文化について特に印象に残っていること

私が異なる文化に触れて、初めて感じたことは驚きです。私は今回が初めての海外でしたが、やはり日本とは大きく違うことがたくさんありました。

1つ目は食事です。日本いただきますやご馳走様などの挨拶をしてから食べる習慣があるのですが、韓国の学生は一切挨拶をせずに食べ始め、食べ終わるのでとても驚きました。

2つ目は食べ残しについてです。今回はバイキングが多かったのですが、日本人の学生は特にお金や食べ物を無駄にしたくないという気持ちから適切な量、食べれるだけの量を盛って食べていたと思います。私ももったいないので少しお腹がいっぱいでも食べ切ろうと思っていました。しかし、韓国人は残すのが当たり前で、なぜ残すのか聞いたところ…作ってくださる方に食べきれないくらい美味しかったです。もう満腹です。という気持ちを表すためだそうです。それを聞いてそのような考えもあるのだなと改めて文化について深く考えさせられました。

○韓国の中学生との交流で特に思い出に残っていること

私は今回が初めての海外でしたが、同じようで少し違う感性や見た目にすごく驚きました。文化の違いが私にとって1番衝撃があったとおもいます。

韓国人の友達が街で歩いているのにカーラーをつけていたりと周りの目を気にしないところが韓国人の性格や良さが出ているなと思いました。私はあまり表に出て何かをすることが苦手なので友達を見習って自分を出して行けるように頑張りたいです。

○韓国の中学生とコミュニケーションとるために努力したことや難しかったこと
(特に言語の部分)

私は K-POP が好きで、K-POP に触れていくうちに韓国語も自然と覚えたいという気持ちが芽生えハングルを読むことや日常的な会話を少しできるようになりました。今回このような機会に韓国人と直接韓国語で会話をしてみて伝わる部分がとても多かったのですごく嬉しかったです。伝わらない部分も英語や翻訳機を使って理解して新しい単語や文法、表現を覚えることができてとても楽しかったです。言葉を覚えることで、異国の人と繋がりを持ったり意思疎通ができるということはとても素晴らしく面白いことなんだと実感しました。この一週間で学んだことは復習しなければ自然と忘れて言ってしまうこともあると思うので、これからも韓国語の勉強を続けて将来、韓国に関わるお仕事が出来たらいいなと思うほどとても興味を惹かれました。

○浅川巧さんのお墓にお参りして感じたこと

浅川巧さんのお墓にお参りをして、とても心が清々しい気持ちになりました。浅川巧さんについて事前に学習をして行ったのですが、やはり現地の方から直接説明を聞くことで、熱意や思いが感じ取れてとても良い経験になったと思います。浅川さんは韓国に来て、各地の歴史あるものを集めて学校を開いたり、とても貢献している人なんだとわかりました。浅川さんはご兄弟で韓国に大きく関わっていることを知って、異国に行って自分の国ではないのに情熱を注いで貢献するということはとても難しいのにすごいと思いました。浅川ご兄弟の功績が今の私たち山梨県の印象を大きく左右したのではないかと思ったので、私も日本全体の雰囲気が海外の人達に良く思われるようにしていきたいと強く思いました。

○この事業をとおして、特に身についたと思う力（理由も含めて）

この事業を通して、私は臨機応変に対応できる柔軟性や社会性を身につけることができたと思います。特に大きな出来事はないですが、日本に帰ってきて誰かと話したりする時に自分の意見を上手く言えたりすることが出来て自分でもビックリしました。この力をもっと身につけてこれからの生活に繋げていきたいです。

山梨・忠清北道 中学生国際交流事業 事後レポート

甲陵中 3年 No20

氏名 坂本慶太

○日本と韓国の歴史について学んだこと

日本と韓国には、豊臣秀吉の朝鮮出兵や、大日本帝国による韓国の支配など、暗い歴史がある。しかし、浅川兄弟の功績などにより、良好な関係を築くことができた。

特に浅川巧氏は、支配下にある朝鮮にわたり、朝鮮の芸術を通じて朝鮮の人々を愛し、愛されたところにとっても感銘を受けた。私も彼のような国際人になり、世界中の人々を尊敬しあえる世界に一步でも近づけられたら良いと思う。

日本と韓国には暗い歴史はあった一方で、私たちの先人は二つの国に良好な関係を築かれた。これからの日本を担う私たちは、先人の築いた関係をさらに発展させて行くべきだと思った。

○異なる文化について特に印象に残っていること

韓国では、料理の味付けが辛かったり甘かったりする、車道が右側通行、朝にシャワーを浴びるなど、日常的な部分でも日本との文化の違いが見受けられた。

そのような異文化に触れる中で、異なる文化を知ることの面白さを学ぶことができた。

また、韓国にも日本での「いただきます」や「ご馳走様でした」を意味する言葉があることに驚いた。

○韓国の中学生との交流で特に思い出に残っていること

特に思い出に残っていることは、2日目にホテルで韓国人とコミュニケーションをとることができたことだ。彼は日本語と英語を話せず、私は韓国語を話すことができなかったため、言語で通じ合うことはできなかったのだが、私が簡単な英単語とジェスチャーを用いてコミュニケーションを図ったことで意思疎通することができた。彼はおとなしく、話しかける前は無視されてしまうのではないかと少し心配でもあったが、いざ話しかけてみたら、彼はやさしく接してくれた。

私はこのことから、特に外国人とのコミュニケーションで大切なことは、失敗を恐れず、笑顔で、元気よくすることだと学んだ。

○韓国の中学生とコミュニケーションとるために努力したことや難しかったこと (特に言語の部分)

コミュニケーションをとるうえで、明るく、元気よく、笑顔で接することを特に意識した。これらのことを意識することで、簡単な英語やジェスチャーだけでも、会話をほとんど行うことができた。

特に初めのほうでは、どのようにして話しかければよいのかわからなかったが、韓国人のほうから積極的に話しかけてくれ、本当にうれしかった。次は自分から話しかけられるようになりたいと思った。

○浅川巧さんのお墓にお参りして感じたこと ○この事業をとおして、特に身についたと思う力（理由も含めて）

浅川巧さんのお墓では、彼が韓国の他の偉人と同じように偲ばれており、彼の残した業績の大きさを改めて感じた。韓国のために尽力された巧さんに感銘を受けた。

この事業を通して、積極性が特に身についたと思う。韓国人の積極性を肌で感じたり、コミュニケーションにおける成功経験をつめたりしたことで、学校や部活であいさつを以前よりも大きく、明るく、ハキハキするようになったと感じ、以前よりも心地よく過ごせるようになったからだ。

また、自国と異なる文化に触れていく中で、「とりあえずやってみよう」という積極的な姿勢も身についた。今回の事業で学んだ、このような積極性をこれからの生活の中にも生かしていきたいと思う。

山梨・忠清北道 中学生国際交流事業 事後レポート

八田中 1年 No21

氏名 興水 和

○日本と韓国の歴史について学んだこと

韓国の歴史についてまなんだことは、チマチョゴリを着て大きい寺に行った。そこで気付いたのは、日本の寺はシンプルな色だけど韓国の寺の色はカラフルで日本の寺では使わなさそうな色があった。それと、チマチョゴリを着てその時代を感じられる歴史ある寺の行き朝鮮時代にタイムスリップしたようだった。また、チマチョゴリは朝鮮時代に着られていたものだったと学んだ。

○異なる文化について特に印象に残っていること

1つ目の印象に残っていることは、食事のマナーで日本では食器を持って食べることが基本ですが韓国では食器を持たないで食べることが基本でおどろきました。また、スプーンやフォークなどを縦においているのが印象に残っています。韓国の食事マナーは日本と真逆でそれに合わせて食事するのに最初を苦戦していました。

2つ目は夏に熱いものを食べる文化があることです。日本は冷やし中華やそうめんを食べて涼めますが、韓国は熱い食べ物を食べるそうです。熱いものをずっと食べているわけではないと思いますが、これも日本と真逆で驚きました。

○韓国の中学生との交流で特に思い出に残っていること

1つ目は、韓国学生のみみなさんが、日本語が上手かったことです。私の斑の子たちは「つ」の発音をちゅではなく「つ」とはっきり発音をしていて、韓国の発音につの発音はないのにどうやって練習したのか気になりました。

2つ目は韓国学生の方とスタッフさんがとてもやさしかったことです。周りのことをよく見ていて緊張していた私たちに積極的に日本語で話しかけてくれて仲良くなれてとてもうれしかったことを覚えています。韓国学生さんたちが日本語がペラペラなので私もハングルを勉強して来年韓国学生さんとコミュニケーションを取れるようにしたいです。

○韓国の中学生とコミュニケーションとるために努力したことや難しかったこと（特に言語の部分）

言語の部分は韓国学生日本語がペラペラでした。私もできるだけ韓国語を頑張ってみようと思いましたがそこまで勉強しなかったのも日本で韓国語を勉強してくれればと後悔しました。そのぶん、積極的に話しかけたら仲良くなれました。

○浅川巧さんのお墓にお参りして感じたこと

山梨県出身の浅川巧さんが韓国でこんなに活躍されていたことが衝撃でした。韓国のために山を増やしたりと韓国が好きなのだと浅川巧さんについて話してくれる方からその話を聞いて伝わってきました。韓国の方たちもとても感謝していると言っており、同じ山梨県民として尊敬しました。

○この事業をとおして、特に身についたと思う力（理由も含めて）

コミュニケーション能力です。身の回りには知らない中学校の子たちがいて友達ができるか心配でしたがみんな優しく仲良くなれました。仲間と行動するにつれてもっと中が深まった感じがします。韓国学生さんにも声を掛け仲よくなれました。この事業がなかったらコミュニケーション能力がこんなに高まることがなかったと思います。

山梨・忠清北道 中学生国際交流事業 事後レポート

御坂中 2年 No 2 2

氏名 小澤李音

○日本と韓国の歴史について学んだこと

韓国の印刷館で昔の韓国の印刷技術を学びました。昔の韓国では本などを一冊作る事さえも難しかったけど、韓国の昔の人達が色々と試行錯誤して直指という韓国の独自の印刷方法を編み出していて韓国の昔の人はとてもすごいと思いました。あと大統領館に行った時韓国の歴代大統領はこんなに大きくて広くてアニメのお金持ちが住んでいるような場所に住んでいたり誰かを招待していたりしていてとてもすごいなと思いました。

○異なる文化について特に印象に残っていること

印象に残っていることは、食事です。なぜなら、食べ物の量は凄く多かったし夜食を凄く食べていて韓国の人達が夜食文化だったからです。最初自分は他の人達より食べられなかったけど、強引に口に入れて吐きそうになりながら食べているうちに結構な量を食べられるようになって嬉しかったです。あと、日本では、木や竹、プラスチックで作られているはしだけど、韓国では、鉄で平らでとても使いづらかったです。

○韓国の中学生との交流で特に思い出に残っていること

特に思い出に残っていることは、食事をしたこととロッテワールドに行ったことです。食事は、とても量は多かったけど、美味しかったからです。一番印象に残っている料理は、サムゲタンです。理由は、鶏肉は柔らかかったしお米はホカホカだったからです。ロッテワールドでは、フレンチレボリューションとアトランティスとジャイロスピンに乗りました。日本のときは、絶叫系が駄目だったけど、班の皆で乗ったら克服出来たのでとても嬉しかったし、これからも絶叫系に乗りたと思いました。あと韓国の人達と韓国の昔の伝統的な遊びをみんなでやったことがとても思い出に残っています。

○韓国の中学生とコミュニケーションとるために努力したことや難しかったこと
(特に言語の部分)

難しかったことは、最初のころに韓国語が「ありがとう」「こんにちは」と「私の名前は小澤李音」しか喋られなかったことです。1日目と2日目のホテルが同じになった韓国人に、夜教えてもらったり、同じ班の韓国人やリーダーに教えてもらったり、同じ班の平野朔君が持って来ていた韓国語の本を一緒に見せてもらって勉強することを努力しました。そのおかげで「いただきます」や「ごちそうさま」など、6個ぐらい新しい単語を覚えることが出来ました。

○浅川巧さんのお墓にお参りして感じたこと

浅川巧さんのお墓に行って感じたことは、浅川巧さんは日本と韓国をつないで両国の文化や海を越えて国境を越えて朝鮮の緑化事業に尽力し、朝鮮の工芸品の研究・紹介に貢献や民藝運動への影響を及ぼしていたり、日韓友好への貢献をしたりして浅川巧さんは韓国でお墓を建てられるまでになっっていてすごいなと思いました。

○この事業をとおして、特に身についたと思う力（理由も含めて）

この事業をとおして特に身についたと思う力は他の国の人や違う言語を話す人達とのコミュニケーション能力が身についたと思います。理由は、韓国で韓国の人達と交流しているうちに知らない言語どうし必死に英語や知っている単語などを使って関わろうとしているうちに知らない言語の人達とこういう風に交流するのはとても楽しいと感じたし、関わろうとしてくれるのがとても嬉しく感じる事ができたからです。

山梨・忠清北道 中学生国際交流事業 事後レポート

甲府南中 3年 No23

氏名 西村 史

○日本と韓国の歴史について学んだこと

山梨県と忠清北道は、民間交流をきっかけに 33 年前の 1992 年 3 月 27 日に姉妹友好都市となり、幅広く交流を重ねていることが分かった。山梨県と忠清北道はどちらも比較的田舎で、海に面していないなど、多くの共通点がある。また、面積と人口において両方とも忠清北道が山梨県の 2 倍近くある。この 2 つの県と道の国際交流の架け橋となったのは山梨県出身の浅川兄弟で、今でもとても大切にされている事をした。

○異なる文化について特に印象に残っていること

私は韓国がキャッシュレス化が進み、カード社会だということがとても印象に残っている。日本はまだまだ現金が多く、私自身普段は現金を使っている。だけど、韓国ではほとんどの人がカードで決済を行っており、現金をあまり使わないことにとっても驚いた。実際私が買い物をしようと現金を出したら、店員さんが困っていて急いでお金をおろしてきたということもあった。その日本と韓国の文化の違いが印象に残った。

○韓国の中学生との交流で特に思い出に残っていること

私は買い物とロッテワールドでの時間が特に心に残っている。買い物では韓国のお店で初めて見るものが沢山ある中、韓国の学生に韓国で有名なものや人気なもの、個人個人のおすすめを聞いて、みんなで買い物を楽しむことができた。ロッテワールドではみんなでどのアトラクションに乗るか、何を食べるかなど決めて行動し、グループ全員の心の距離がとても縮まったように感じた。初めはみんな緊張してあまり話さなかったが、グループでの行動が多くなり、だんだんと打ち解けあうことができてとてもうれしかった。この長いようで短い 1 週間で毎日みんなといることが当たり前になったように感じて、別れるのはとてもさびしかった。みんなでまた会おうと約束して「またね」と言った言葉が実現する日が楽しみだ。

○韓国の中学生とコミュニケーションとるために努力したことや難しかったこと
(特に言語の部分)

韓国の学生とコミュニケーションをとろうと努力したことはできるだけお互い相手の言語で話そうとしたこと。分からないことは先生に聞きながら、それを使って話すように意識した。私たちのグループには日本語のできる韓国学生がいたからなんとか会話することができたものの、話しかける勇気がなく、あまりはなせないこともあった。それでもお互い歩み寄ってコミュニケーションを取ろうとすることができた。

○浅川巧さんのお墓にお参りして感じたこと

浅川巧さんは韓国を愛して自ら韓国で緑化活動を行い、それを受けて韓国の人々が浅川巧さんを大切に、葬儀を大勢で行ったことを知った。また、その出来事が今でも受け継がれ、たくさんの人が浅川兄弟のことを今なお大切にしていることを知り、同じ山梨県民としてとても嬉しいし、山梨県と韓国はこれからも交流を深めていってほしいと思った。また、私自身これからも山梨と韓国の人々のつながりや文化をもっと大切にしていこうと思った。

○この事業をとおして、特に身についたと思う力（理由も含めて）

積極性が増したとおもう。それは私がもともと引っ込み思案なのもあり、今回の交流を通して少し自分に自信がついたことが大きいと思う。初めは誰一人知っている人がいないこの交流をすることが少し心配だったが、みんなが優しく話しかけてくれたおかげでたくさん友達を作ることができた。それに、逆に誰も自分のことを知っている人がいなかったからこそ、話しやすかったのかもしれないと今では思う。さらに、韓国の学生と話して気持ちを伝えることができることがわかり、自分でも話すことができるのだと自信を持つことができた。その経験が私に積極性をつけてくれたと思う。今回の事業で単なる旅行とは違う、同年代の学生と関わるととても貴重な体験ができた。

日本と韓国の多くの関係者の方々のおかげでこのような素晴らしい活動に参加することができました。ありがとうございました。

○日本と韓国の歴史について学んだこと

日本は昔から朝鮮を下に見る傾向があった。その延長線から日本は朝鮮を日本の土地にしようとして戦争を多岐にわたって戦争を朝鮮と行ってきた。そのため、お互いの国をお互いが嫌悪するようになっていたことが分かった。しかしながら、そのような様相のなか、浅川巧などの人物の活躍により両国のお互いを思う気持ちは徐々に変わっていった。事実、今回の交流の中で韓国側の生徒が日本人を冗談でも差別するようなことは一度たりともなかった。また、一般の方々も我々日本人へすごく優しく接してくれた。日本の「おもてなし」に通ずるものを感じられ、やはり両国がお互いを思う気持ちは明らかに良い方向へ変わっていていると思った。

○異なる文化について印象に残ったこと

とにかくキムチだ。ホテルでの食事はほとんど毎回朝晩問わずキムチが出た。これは、日本のおもてなしに伴って出す和食とは異なり、韓国の方々にとっては当たり前のように食事に出てくるという習慣だということが分かった。自由行動の際韓国のいわゆるファーストフード店のような場所に行っても、水とともにキムチを無料で食べることができた。また、タクワンも一緒に無料で食べることができた。そのため韓国は漬物の文化が世代問わず根強いことがわかった。韓国は美容大国。これは世界において周知の事実であるが、実際に訪れると本当に合う人全員肌が綺麗だった。漬物には美容には欠かせないビタミン C や腸内環境改善効果があるため韓国が美容大国であるのはこの「漬物」が理由のひとつなのかもしれない。

○韓国の中学生との交流で特に印象に残ったこと

やはり繋がりという部分だ。関わった期間は 6 日間。人生 100 年時代と言われる現代で考えるとすごく短いというチープに聞こえるほどだ。しかしながら最後のプログラムであるロッテワールドでの自由行動が終わってからのお別れ会。6 日間の完全交流というものの大きさを知った。大半の人が泣いていた。韓国の人たちは日本語で「また会おう」と、いっていた。学年も、もちろん国籍も違う私達がこのメンバーで再会することは不可能に近いことはあの場にいるすべての人が分かっていたことだ。だが韓国の人たちは「さようなら」ではなく「また会おう」と、我々にしてくれた。私は嬉しかった。多分この言葉が我々の 6 日間を表していると思う。最初はドキドキで言語も違う人たちと仲良くなれるか心配だったが、友達とは違う仲間に近いそんな「繋がり」がその瞬間絶対にできていたと思う。

○韓国の中学生とコミュニケーションを取るために努力したことや難しかったこと

韓国語を積極的に使おうと日本から持ってきた韓国語の本を日本人の人たちとともに、時には韓国人の方に教えてもらいながら短い言葉を覚え使った。難しかったことは発音だ。日本語にはない発音は一生懸命教えてもらったがすごく難しかった。そもそも何が違うのかが僕の日本語慣れした耳ではわからなかった。しかし、積極的に関わろうというこちらからの意志とジェスチャーで心で会話することが多くの場面でできた。

○浅川巧さんのお墓参りをして感じたこと

私の学校では浅川巧さんの功績をもっと多くの人に知ってもらおうと10月に浅川巧さんを主人公とした劇を地域のホールでやる予定だ。しかしながら、私も巧さんについてはよく知らなかった。どこまで韓国人の人が浅川巧さんの功績について熟考しているのかもよく分かっていなかった。しかし、今回の交流学习で明確にその功績や意志は分かった。お墓に行く道でガイドさんが話す巧さんの人生は韓国への貢献者そのものだった。言葉はわからなかったが、表情や話すテンション感によって十分に韓国人の人たちが浅川巧に感謝していることが分かった。そんな巧さんの墓へは日本と韓国が今よりもっと何倍も良好なかんけいになることをいのつてきた。

○この事業を通して身についたと思う力

力というよりも考え方といったほうが適切かもしれない。文化、言語、国籍も違う人たちと関わるというのは改めて考えるとすごく難儀なことだと行く前は少し考えてしまっていた自分がいた。しかし、今は100%そのようなことはない。むしろもっともっと関われたらと思う。日本に帰って気づいたのは自分がこの7日間で自分が感じている以上に韓国に染まっていたことだ。これは前述したように私に異文化を吸収したいと思う意思ができたことの表れだと思う。この「意志」こそがこの事業を通して私が身につけたものの中で一番大きなものだと思う。

山梨・忠清北道 中学生国際交流事業 事後レポート

押原中 1 年 No25

氏名 金岡 宥磨

○日本と韓国の歴史について学んだこと

日本と韓国は昔から、深く交流していました。それを浅川巧さんがさらに日本と韓国の関係を良好させていました。

日本と韓国は 1500 年以上も交流がありますが、およそ 100 年前は韓国は日本の植民地になっていました。日本が飛鳥時代や古墳時代のころから日本と韓国は交流していますが、日本からも韓国に技術も送っていたものがありました。その例えは、日本の法隆寺です。韓国にも法住寺というお寺がありますが、法住寺の建物は日本の建築方法をもとに建てられたお寺です。

○異なる文化について特に印象に残っていること

日本と韓国の食文化は、ものすごく違いました。韓国は、必ずと言っていいほど、毎日キムチが出ます。また、サムゲタンを食べているとき、班の先生がお酒は 19 歳からと言い、とても驚きました。日本では 20 歳からなのですごく違和感を感じました。日本と韓国はとても近い国なのに、言葉がすごく違うことに驚きましたが、同じ発音の単語があることにさらに驚きました。建物は、日本にも似たような建物があつたことにも驚きました。

○韓国の中学生との交流で特に思い出に残っていること

韓国の学生たちと一緒にお菓子を食べ、「ゆうま」と呼んでもらえたことが印象に残っています。また、道具の使い方も教えてくれました。韓国の伝統的な遊びを体験したときに、韓国の学生と仲を深めたのも思い出に残っています。買い物に行った時にも、商品の説明をしてくれて、お勧めだよと教えてくれました。同じ部屋になった韓国の中学生に「もうこんな時間だよ」と朝起こされたのも一つの良い思い出です。

○韓国の中学生とコミュニケーションとるために努力したことや難しかったこと (特に言語の部分)

韓国語があまりわからなく、どうやって話そうか迷いましたが、英語やグーグル翻訳を使って、会話をしたりして話をしました。初めて会ったときは、どうやって言葉を伝えたり、どのように話題を持ち掛けるか迷ったこと、また、挨拶はしたけど次は何を話そう、どうしようと焦ってしまった時もありました。伝えたいことはあるが韓国語わからなく、話をするのに苦労しました。

○浅川巧さんのお墓にお参りして感じたこと

浅川巧さんは日本と韓国の懸け橋になってくれた存在だったのだと改めて、感謝の気持ちが出てきた。どのようなことをしてくれたのかななどを考えながら黙とうを捧げました。自分もできるのならば日本と韓国の懸け橋になりたいと思いました。

○この事業をとおして、特に身についたと思う力（理由も含めて）

初めて会う人でも積極的に話しかける力、話しかけられたら、緊張せずに話す力、勇気を持って話かけることが身についたと思います。言葉が違くても、勇気をもって話しかけることや、簡単な言葉から仲を深めていけるということを学びました。

山梨・忠清北道 中学生国際交流事業 事後レポート

山梨学院中 2年 井出愛佳梨 No.26

○日本と韓国の歴史について学んだこと

浅川兄弟さんたちが韓国で「韓国の土になった人」と呼ばれておりとても敬愛されていることが分かりました。そして日本がかつて韓国を植民地支配していたことも分かりました。しかし韓国の人たちは「昔は昔のこと、これからをみていかなければならない」ととても前向きな姿に感動しました。

○異なる文化について特に印象に残っていること

韓国には儒教の教えが広く伝わっているので韓国の学生が年上の友達を呼ぶ時に 언니（お姉さん）と呼ぶ姿を見ることが多く、日本にはない文化なので特に印象に残りました。

○韓国の中学生との交流で特に思い出に残っていること

様々なイベントがありましたが韓国学生とお話をしたり韓国語を教えてもらった、日本語を教えたりしたことがとても思い出に残っています。そしてお墓へ訪問して帰る際に蝶々がいて、韓国の童謡である「ちょうちょのうた」を教えてくれたことやご飯屋さんで 닭한마리（韓国の鶏料理）の食べ方を教えてくれたりしたことが思い出に残っています。

○韓国の中学生とコミュニケーションをとるために努力したことや難しかったこと
(特に言語の部分)

事前にハングルを読めるようにしたり、簡単な挨拶や単語を覚えていき、文になるような勉強をしました。しかし実際に韓国の地へ行くと「この単語はなんという意味なのだろう」という場面が多く自分の勉強不足を目の当たりにしました。そして何日かすると自分の言いたいことは韓国語で言えるようになっていきましたが、細かいニュアンスが伝わらずとても苦戦しました。

○浅川巧さんのお墓にお参りして感じたこと

お墓に行く道中にはたくさんの浅川巧さんの旗があり、ご年配の方々もお墓に行く様子を見て、とても愛されているのだなと感じました。そして韓国と日本にとって必要な存在なのだと改めて感じました。

○この事業をとおして、特に身についたとおもう力(理由も含めて)

私は最初積極的に手をあげたり発言することができていませんでした。しかし発表会での韓国の学生たちの発表を見たり、韓国語で話そうとすると仲間や先生が親身に聞いてくれたことで自信がつき、最終日のお別れ会では韓国語でスピーチすることができたり、浅川兄弟のお墓へ訪問した時にはお花をお供えすることも自らすすんで出来たりと、とても自分でも積極性が上がったと感じました。そして、日本に帰ってきてからも発言の場があると積極的に言えるようになり、自ら行動することが格段に増えたことから自分をアピールする力がついたと思いました。

山梨・忠清北道 中学生国際交流事業 事後レポート

山梨大学附属中 3 年 No 2 7

氏名 石川 愛

○日本と韓国の歴史について学んだこと

事前レポートで韓国について調べる中で、日本が韓国を攻撃や支配してきた歴史が多く、多く韓国の人が日本にあまりいいイメージを持っていないと思い、ルールやマナーにはよく気をつけて行動しようと考えていた。しかし、思っていたより日本が大好きな人がたくさんいたり、日本語で話してくれる人がいたりして、国の間で問題があるとしても、一人の人間として関わるのが大切だと学んだ。

○異なる文化について特に印象に残っていること

韓国の学生は日本の学生よりもスマホを多く使っていると感じた。また、交流前に聞いたことのある効率やスピードを重視する「パリパリ文化」というものを体験したと思う。お店では店員さんが手早く料理を運んできたり、車の運転も全体的に急いでいたりした。

○韓国の中学生との交流で特に思い出に残っていること

朝の 3 時ごろまでお話をしたり、お互いの国のお菓子を交換したり、現地での交流が終わった今でもビデオ電話をしたり、言語の違いがあってもこれだけ仲良くなれることがわかり印象に残っている。

○韓国の中学生とコミュニケーションをとるために努力したことや難しかったこと（特に言語の部分）

交流では言語の違いから通訳を必要とし、その為会話に時差がありました。また、自分が思ったことの細かい感じや雰囲気まで伝えるのが難しく、もどかしい思いをした。コミュニケーションをとるためには、忍耐強さが必要だと思った。

○浅川巧さんのお墓にお参りして感じたこと

日本のお墓でなく韓国のお墓に眠っていることや、今もきれいな状態でお墓が保たれていることから、韓国と日本が関わっていく中で、浅川さんはとても大事な役割を果たした人なのだと改めて思った。

○この事業をとおして、特に身についたと思う力（理由も含めて）

韓国の学生はグループでの活動で積極的に声かけをし、人が話しているときも反応が多く、日本の学生よりも意欲的で行動的だった。その影響で、私も交流中に積極的に活動に取り組むことを意識し、日本人の友達とばかりではなく、韓国の学生にも話しかけ、代表の挨拶もやってみました。

山梨・忠清北道 中学生国際交流事業 事後レポート

南西中 3年 No28

氏名 保坂八起

○日本と韓国の歴史について学んだこと

韓国で活躍していた日本人、浅川兄弟のことも知ることができました。

浅川巧さんは韓国の人々から「山林の恩人」として敬われていたそうです。植林や山林保護に尽力したすごい方だと知りました。

浅川伯教さんは朝鮮文化を尊重し、その価値を日本に紹介したそうです。

この兄弟の活躍により「日本と韓国の歴史は対立だけではなく、尊敬や共生の可能性もあった」という深い歴史を感じました。

○異なる文化について特に印象に残っていること

食べ物が辛いと感じました。

特にキムチを食べた時に、日本で食べているキムチとは全く違う辛さだと感じました。

韓服（韓国の民族衣装）と和服が全然違うというところが印象に残っています。

○韓国の中学生との交流で特に思い出に残っていること

サッカーをしたことやロッテワールドという遊園地に行ったことが印象に残っています。

サッカーは言葉の壁を越え、同じスポーツをやっているということがとても楽しく感じました。

○韓国の中学生とコミュニケーションとるために努力したことや難しかったこと (特に言語の部分)

韓国に行く前に韓国語の本を買いよく使いそうな言葉などを学んでから韓国へ行きました。

韓国語の本は韓国へも持っていき、買い物の時などに使いました。

自分の気持ちを伝えたり、自己紹介をするのがとても難しかったです。

○浅川巧さんのお墓にお参りして感じたこと

浅川巧さんは日本人でも韓国の人達にとっても大事にされていることが分かりました。
日韓の歴史を考える上で大切な希望だと思いました。

○この事業をとおして、特に身についたと思う力（理由も含めて）

最初は初めて会うお友達に話しかけられずにいましたが、この事業を通して知らない人でも自分からしっかり話しかけられるようになりました。
この事業を企画・運営して頂いた方々に感謝しています。
ありがとうございました。

※フォントやサイズは変更しないこと。 ※各項目の「行」は増やしても構わない。

山梨・忠清北道 中学生国際交流事業 事後レポート

城南中 1年 No29

氏名 小林礼旺

○日本と韓国の歴史について学んだこと

日本と韓国の歴史を学ぶ中で、いくつかの特徴があった。まず、韓国では寺院などの文化財には漢字が用いられていた。また、昔の人々は現在のように薄着で涼しく過ごす文化が少なく、暑い季節でも厚着を着ていたことが分かる。さらに印刷技術は長い年月をかけて改良が重ねられ、木版から金属活字など様々な段階を経て、現代に伝わる発展を遂げました。そして、韓国はかつて4つの地域に分かれており、それぞれが独自の文化や歴史を持ちながら後に1つの国としてまとまっていったという流れも興味深かった。

○異なる文化について特に印象に残っていること

韓国での国際交流を通して、日本と韓国の文化の違いの中でも特に食文化が印象に残りました。私は食べ物に1番興味があったため、日本との違いを探しながら体験しました。まず驚いたのは、どこに行っても料理にキムチがあり、キムチは食卓に欠かせない存在だったということです。また、日本に比べて物価が安く、買い物を気軽に楽しめました。さらに日本ではあまり見かけない食べ物がいっぱいありそのほとんどが美味しかったです。特に印象に残ったのは、プルコギが鍋にはいって出されたことです。日本でのプルコギのイメージとは異なり、具材と一緒に煮込むスタイルに文化の違いを感じました。こうした体験と食を通して、韓国の暮らしの1部を知ることができました。日本と韓国の文化の多様性をより深く理解できました。

○韓国の中学生との交流で特に思い出に残っていること

韓国での一週間の国際交流の中で、特に心に残った出来事がいっぱいありました。まず印象的だったのは日本から来た友達がみんなの前で堂々とナルトダンスを踊ったことです。最初は驚きましたが、その勇気ある行動に会場が笑いに包まれました。また、韓国の中学生達はとても積極的で、言語の違いがあっても気軽に話しかけてくれたおかげで、すぐに打ち解けることができました。そして滞在中、僕が誕生日を迎えた日、韓国の友達が、クレヨンゲームでクレヨンしんちゃんの人形を取ってプレゼントしてくれて、大切な思い出になりました。さらに交流活動の中で昔の服を着て、みんなで王宮のなかを歩いたことも忘れられません。この一週間で得た経験は、文化や言語の違いを超え、友情を深められた気がします。

○韓国の中学生とコミュニケーションとるために努力したことや難しかったこと

韓国の中学生と交流する中で、言葉の壁を感じる事がよくありました。特に語尾が多く、うまく話せないこともありました。しかし通訳がない時にはジェスチャーを使って気持ちを表し、笑顔や動きを交えながら、工夫することで相手に伝えることができました。また、どうしても複雑な内容を伝えたいときは、翻訳アプリを使い、お互いにスマホを見せながら会話を進めました。完全にスムーズには行かなくても、楽しく交流することができました。

○浅川巧さんのお墓にお参りして感じたこと

日本と韓国を繋いだ陶芸家、浅川巧さんのお墓参りをして、様々な思いを抱きました。お墓は高いところにあり、そこから眺める景色はとても良く、ここに眠るのは気持ちいいだろうなと思いました。一方でお参りに来る人は大変だろうと思いました。また、ふるさとの山梨から離れた韓国で暮らし活動した浅川巧さんは、どんな気持ちで日々を過ごしたのだろうと思いました。文化や海を越えて尽力した浅川巧さんが、この地で多くの功績を残し、静かに眠っていることにすごい人なんだなと思いました。

○この事業をとおして、特に身についたと思う力

今回の国際交流事業を通して、自分にとって大きな学びとなったことがいっぱいありました。まず、韓国の人たちがいろんなジェスチャーを使って気持ちを表してくれて自分もジェスチャーで積極的に伝える大切さを学びました。また、滞在中には韓国の食べ物をたくさん味わい、日本ではあまり口にすることのない料理も食べたことで、韓国の食に関する知識が増えた気がします。さらに交流を通じて、韓国の歴史や文化について知ることができ、教科書だけではわからない知識を得ることができました。こうした経験はこれからの生活や人との交流に大きく役立つと思います。

山梨・忠清北道 中学生国際交流事業 事後レポート

山梨学院中 2年 No30

氏名 荒神 榛那

○日本と韓国の歴史について学んだこと

韓国で直指が初めて作られたことを初めて知りました。実際に使っていたところを見て、とても感動しました。具体的には、最初は、土を詰めただけでしっかりと形が作られるのか不思議でしたが、目の前で1200℃の鉄が溶けたものが流されて固まるのを見て、感動しました。大学の見学に行った時に見た縄文時代の頃の子供の骨を見た時もまた感動しました。年代ごとの頭蓋骨が飾ってあって、人間の顔の形がどう変化していったのかを学びました。大統領の昔の別荘に行った時に、年代ごとの大統領の性格や好きなことを知れました。韓国のお寺に行った時も、日本との戦いやそれによって建物が壊されてしまったことを学びました。チマチョゴリを着て歩いた時は、周りの人がほぼ全員昔の格好をしていたので、昔はこのような風景だったのかなと考察することもできました。

○異なる文化について特に印象に残っていること

まず韓国についてから最初に気づいたのは、お箸です。日本は、木のお箸を使っていますが、韓国では、金属のお箸を使っていました。最初は慣れなくて使いにくかったのですが、慣れてきて使いやすくなった頃には、日本のお箸が少し太いと思うようになっていました。次に、おかずの数が異なることも印象に残っています。日本は、おかずは、一般的に一汁三菜と言われるほどですから、3つ。韓国では、おかずが小鉢のようなものにたくさん入っていて、それらも合計して5つほどおかずがあった日もありました。そして、就寝・起床時間も印象に残っています。日本では、早寝早起きが重要視されていて、夜9時～10時には寝て、朝6時～7時には起きることが求められていますが、今回の交流では、夜10時ぐらいまで活動して12時ぐらいに寝て朝8時に朝食でした。夏休みであることもあるとは思いますが、就寝時間には驚きました。

○韓国の中学生との交流で特に思い出に残っていること

日々たくさんの活動をしたので、それらの活動で韓国の中学生と交流したことも印象に残っているのですが、何気ない会話や、ふざけ合いなどが心に残っています。2日目に、ロビーで一緒にトランプをしない？と誘ってくれてアイスなどをプレゼントしてくれたことがとても嬉しかったです。優しくトランプのゲームのルールを説明してくれてみんなでゲームをしたのがとても楽しかったです。バスの中で韓国の中学生と日本の中学生と一緒にふざけ合って話していたのもとても楽しかったです。別れる時とても寂しくて、もう会えないのかな、、、と考えるととても悲しかったです。悲しくなるまでおもてなししてくれて、仲良くなってくれた韓国の中学生の方々に感謝しかありません。

○韓国の中学生とコミュニケーションをとるために努力したことや難しかったこと
(特に言語の部分)

韓国の中学生とコミュニケーションをとるために努力したことは韓国の中学生が口にしていた韓国語をなるべく覚えることです。その言葉を実際に言ってみると、とても喜んでくれたり、正しい発音を教えてくれたりしてくれました。そこでまた新たなコミュニケーションが生まれるので、会話することがとても楽しかったです。難しかったことは、どうしても言葉の壁を越えられず、伝わらない言葉があった時に気まずくなってしまうことでした。翻訳を使って伝えると、時差があるので、反応が薄かったりするのも悔しかったです。なので、韓国語を少しでも多く身につけてたくさんの人と話せるようになりたいと思いました。韓国語を話している人の会話を聞いてみたり、実際に使ってみたりして、自分で使える韓国語を増やしていきたいです。

○浅川巧さんのお墓にお参りして感じたこと

お墓の周りの風景などをみて、韓国への愛が伝わってきました。自分が開拓したこの地に眠りたいという熱い気持ちが伝わってきました。韓国のこの環境がいい！という思いも伝わってきました。また、浅川さんがこの山の木を全て植えたという話を聞いてとても驚きました。もともとこの山に生えてた木だと思っていたので、とても驚きました。驚きと同時に、行動力にも感動しました。考えることは誰でも簡単にできるけど、それを行動に移す「考動」はなかなかできないものだと思っているので、現実で実践をされていて、とても感動しました。

○この事業をとおして、特に身についたと思う力（理由も含めて）

私は、この事業を通して相手に反応する力と周りに遅れないように時間をしっかり守る力が身についたと思います。なぜなら、ガイドさんがバスの中で話している時に、韓国の中学生は、ちゃんと返事をしているのに、日本の中学生は返事をしないで黙っていたことがあったので、返事は、相手へ自分の反応を示す大事な方法なのだと理解できた時から、返事や相槌などの相手への反応をよくしようと心がけました。また、周りに遅れないように時間をしっかり守る力については、理由は、今回の事業で時間が遅れた時にどれだけ周りに迷惑をかけているかが実感できたからです。暑い中みんな時間を守って待っているのに、10分近く遅れてきていた生徒がいて、予定が後ろ倒しになっていたところを見て、もし自分が待っている側ではなく、待たせている側だったらと考えただけで恐怖でした。数分でも遅れてしまうと、その後の予定が後ろ倒しになり、参加しているみんなだけでなく、スタッフさんのみんなにも迷惑をかけているということを理解することができました。

※フォントやサイズは変更しないこと。
※各項目の「行」は増やしても構わない。

山梨・忠清北道 中学生国際交流事業事後レポート

山梨大学教育学部附属中 3年 No 3 1 氏名 石崎莉乃

○日本と韓国の歴史について学んだこと

現地を訪れて、日本と韓国は古代から今日まで、輝かしい歴史においても悲しい歴史においても、隣国として密接な関係を築いてきたことを改めて実感しました。歴史の授業でも学んだように、古代には儒教思想や渡来人を通じた文化交流によって両国が発展してきましたが、豊臣秀吉の時代以降は日本による植民地支配など、残念な歴史が増えていったと感じました。しかし、そのような出来事があった過去を超えて、現在の韓国の方々は私たち日本人を温かく迎えてくれました。だからこそ、これからの未来を担う私たち若者が歴史を理解し、歴史から学び、より良い関係を築いていくことが何よりも大切だと学びました。

○異なる文化について特に印象に残っていること

一週間の交流期間を韓国の学生とともに過ごす中で、多くの文化の違いに気づきました。二日目に訪れた法住寺で、一人ずつ祈りをした際、日本の学生は小さな木魚を鳴らした後に座って手を合わせるのに対し、韓国の学生は立ち上がって手を合わせていました。私は「韓国の学生は仏教の礼拝方法を知らなかったのでは」と思い、仲良くなった韓国人の仏教徒に尋ねてみました。すると「座っても立っても問題はないが、多くの場合は立って祈る」と教えてくれました。また、お寺や街中で蓮の花が多く飾られていることも印象的でした。そこから私は、韓国の仏教は清浄さや悟りの象徴である蓮を特に大切にしているのだと考えました。共通の宗教の中にある相違点を直接見て、学び、考えることができた貴重な経験でした。

○韓国の中学生との交流で特に思い出に残っていること

私が特に心に残っているのは、韓国の学生と過ごした何気ない一瞬です。交流二日目、まだ多くの方が言葉の壁や文化の違いに戸惑っている中、5人の韓国の学生とスタッフの方が「一緒にアイスを食べながらトランプをしないか」と声をかけてくれました。コミュニケーションをとるきっかけを作ってもらえたことが本当に嬉しかったです。その日の夜には、部屋にいた学生全員でカップラーメンを作って食べ、互いの国の文化や常識を紹介し合いながら交流を深めることができました。韓国で過ごした一週間は一秒一秒が思い出で、日本が大好きな私でさえ「帰国したくない」と思うほどでした。六日目の最後、友だちが苦しいほど涙を流して別れを惜しむ姿は、一週間という短い時間でもお互いにとって大切な存在になれた証だと思います。

○韓国の中学生とコミュニケーションとるために努力したことや難しかったこと（特に言語の部分）

私は小学3年生ごろから kpop の音楽を聴くことが趣味であり、それをきっかけに韓国語のテキストを買ってみたり韓国に関係のある YouTube を見たりと、とても自然な形でこれまでも楽しみながら韓国語に触れてきました。しかし実際に韓国人の方と直接話す機会は初めてだったので、最初は会話を続けるのがとても難しいと感じました。しかし、相手がゆっくり英語で話してくれたり、翻訳アプリを使ったり、ジェスチャーを交えながら伝えることで、少しずつお互いに理解し合えるようになりました。また、日本語を勉強している韓国の学生もいて、簡単な日本語で話しかけてくれることもありました。言葉が通じなくても「伝えたい」という気持ちが大切であること、そして相手の話を一生懸命聞こうとする姿勢があれば心はつながるのだと私は確信しました。

○浅川巧さんのお墓にお参りして感じたこと

私は浅川巧さんのお墓に向かう途中、多くの人が大変な坂を登っていく姿を目にしました。「家族でもない方のお墓に、なぜこれほど多くの人を訪れるのだろう」と思いましたが、それは浅川巧さんが朝鮮の風土や文化、人々を深く愛し、大きな功績を残した日本人だからだと気づきました。植民地支配の中で山林が荒廃していた時代に、浅川巧さんが山林の緑化に尽力したことを学び、今も韓国の人々に慕われている理由が分かりました。浅川巧さんの功績は、日韓友好の象徴としてこれからも語り継がれるべきだと感じました。

○この事業をとおして、特に身についたと思う力（理由も含めて）

この事業を通して、私は「相手を理解しようとする力」が一番身についたと思います。日本では当たり前だと思っている習慣や考え方も、韓国では異なっていることが多くありました。その違いに驚くだけでなく「なぜ違うのか」「どうしてそうしているのか」を考え、相手に尋ねることで、お互いの文化を深く知ることができました。また、言葉が完全には通じない中で交流を続けることで、表情やしぐさなど、言葉以外のコミュニケーションの大切さも学びました。そして最終日、別れのときには国境を越えて心が通じ合った仲間たちとの別れが本当に悲しく、涙が止まりませんでした。一週間という短い時間でここまで意思疎通や相互理解を深められたことに、私は大きな感動を覚えました。この経験は私の人生において忘れられない宝物です。だからこそ、来年以降もぜひ参加し、さらにたくさんの人と交流し、自分を成長させたいという強い思いを持っています。私はもともと国際的な仕事に就き、将来は海外に学校をつくって多くの子どもたちが学び合える場を実現したいという大きな夢を持っています。今回の交流で身につけた「相手を理解しようとする力」や「文化の違いを受け入れる姿勢」は、その夢を実現するために欠かせないものだと感じました。この事業を通して学んだことを土台にして、これからも国際的な舞台で活躍できる人に成長していきたいです。最後に、このような貴重な機会を与えてくださった関係者の皆さま、そして一緒に時間を過ごしてくれた韓国の仲間や日本の仲間に、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

山梨・忠清北道 中学生国際交流事業 事後レポート

笛川中 3年 No3 2

氏 名 若 月 優 和

○日本と韓国の歴史について学んだこと

日本と韓国の歴史は昔から深いことは知っていたのですが、具体的にどのようなことをしてきたのがわからなかったのですが、じっさいに韓国に行ってみたら、町中に日本の物があったりしたので、そういうところなどで学びました。

○異なる文化について特に印象に残っていること

韓国とは違う文化で特に印象に残っているのは、古印刷です。日本とは全然違う作り方だったので少しきょうみを持ちました。

○韓国の中学生との交流で特に思い出に残っていること

韓国の中学生とは、移動の時などにおもしろい話をするのが特に思い出に残っています。

○韓国の中学生とコミュニケーションとるために努力したことや難しかったこと (特に言語の部分)

最初は韓国語で喋れないのであまり会話できないと思ってがんばって少しはおぼえようとがんばったのですが、韓国の中学生の人達が思ったよりも日本語を喋ってくれたおかげで楽しく会話ができるようになりました。

○浅川巧さんのお墓にお参りして感じたこと

浅川巧さんは日本人なのに韓国にお墓があるので、どれだけ浅川巧さんがどれだけ韓国に良いことをしたのかを感じました。

○この事業をとおして、特に身についたと思う力（理由も含めて）

僕が身につけた力は、自分から動く行動力です。今までは、人に言われてから動いたり、気づいたりしていましたが、この事業を通していくうちにだんだんと自ら色々なことに気づいたり、行動できるようになりました。